

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マーケット略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 野田 明	

講義のねらい

- ・ 英語の構造をよく理解し、英文を正確に読み取ることを目指す。

授業計画

- ・ 現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。
- ・ 英語の文章を読むことに主眼を置き、同時に、高校までに学習した文法事項、構文などを確認します。
- ・ 「会話」の授業ではありません。
- ・ 授業は演習方式で行うので、決められた範囲については必ず予習をして授業に臨んでください。
- ・ 授業中に辞書を引くことがあるので、各自で用意してください。
- ・ 基本的な事項についても、必要に応じて、説明を加えながら進めていきます。また理解の確認のために授業中に小テストを行うことがあります。

前期

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第4回：Lesson 1～2、文法基礎
- 第5回～第8回：Lesson 3～4、文法・構文 I
- 第9回～第12回：Lesson 5～6、文法・構文 II
- 第13回～第14回：総合演習
- 第15回：まとめと確認（筆記試験）

後期

- 第1回～第4回：Lesson 7～8、重要語彙・表現 I
- 第5回～第8回：Lesson 9～10、重要語彙・表現 II
- 第9回～第12回：ハンドアウト、英文のスタイル
- 第13回～第14回：総合演習
- 第15回：まとめと確認（筆記試験）

教材・テキスト・参考文献等

別途掲示します（大学生協で購入のこと。）

成績評価方法

- ・ 予習と授業での発表及び小テストを平常点とし、それと前期・後期各最終回に行う筆記試験の成績を総合して評価します。
- ・ 授業に出席していても、勉強する姿勢がないと単位は与えられません。

その他

- ・ 授業中の雑談、携帯電話等通信機器の使用は厳禁とします。
- ・ 授業では、必要に応じて基礎的な文法事項も確認しながら進みますが、高校1年生程度の学習内容は必要になるので、その点留意して受講してください。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 武田 治美	

講義のねらい

グローバル化が進展する中で、国際社会で活躍するためには、英語での議論やプレゼンテーションが出来るような発信型英語力が必要です。自分の考えを積極的に相手に伝える発信型英語力を身につけることを目的としたテキストを使い、これまでに学んできた基礎的な英語の聴解力、読解力、文法力を効果的に応用発展させ、英語での総合的なコミュニケーション能力、すなわち、“使える英語”の習得を目標にしています。

授業計画

	前期		後期
第1回	授業の概要説明 受講に際しての注意事項説明	第16回	Unit 13 Part 1 Choosing Words Carefully Part 2 Enquiries
第2回	Unit 1 Part 1 Dynamic Japan, Quiet Britain Part 2 Our Company	第17回	Unit 14 Part 1 British Currency Part 2 Orders
第3回	Unit 2 Part 1 Sports-loving Mathematician Part 2 Our Boss	第18回	Unit 15 Part 1 Differences in a Business Letter Part 2 Complaints
第4回	Unit 3 Part 1 Our Old Wooden House Part 2 The Other Staff	第19回	Unit 16 Part 1 Business Going Well Part 2 Confirmation
第5回	Unit 4 Part 1 Feeling Bad Part 2 Quality Service	第20回	小テスト 関連教材をプリントで配布
第6回	小テスト 関連教材をプリントで配布	第21回	Unit 17 Part 1 Over My Head Part 2 Filling in Forms
第7回	Unit 5 Part 1 Long and Slow Words Part 2 The Neighbourhood	第22回	Unit 18 Part 1 Important Writing Skills Part 2 How to Communicate
第8回	Unit 6 Part 1 From Unisex to Feminine Part 2 An Interesting Future	第23回	Unit 19 Part 1 Reading between the Lines Part 2 Thanking
第9回	Unit 7 Part 1 Full of Mysteries Part 2 I got lost	第24回	Unit 20 Part 1 What does youth mean? Part 2 Apologising
第10回	Unit 8 Part 1 Turning into a Nightmare Part 2 An Accident	第25回	小テスト 関連教材をプリントで配布
第11回	小テスト 関連教材をプリントで配布	第26回	Unit 21 Part 1 A Dream into Nightmare Part 2 Advice
第12回	Unit 9 Part 1 A Panic Dream Part 2 A Weird Dream	第27回	Unit 22 Part 1 A Watch and a Place Part 2 Arranging a Meeting
第13回	Unit 10 Part 1 Going Back to the Old Regime Part 2 Yesterday's Meeting	第28回	Unit 23 Part 1 Language Variations Part 2 Postcards and Emails
第14回	Unit 11 Part 1 Low Quality Items Part 2 My Previous Company	第29回	Unit 24 Part 1 Skills for a Good Writer Part 2 How to Write
第15回	Unit 12 Part 1 Can't Sit Still Part 2 The Logo	第30回	総復習

教材・テキスト Simply Reading, Simply Writing 南雲堂

成績評価方法 ・ 毎回出席をとります。

・ 成績は試験（60%）、課題提出（20%）、出席（20%）で評価します。

授業では、全受講生に少なくとも一度は発言の機会を与え、必要に応じて、関連教材のプリントを配布し、常に受講生の理解度に合わせて授業を展開させていきます。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 大蔵 香代子	

講義のねらい

・本講義は英文の読解力を身につける。語彙・文法・構造の習得、定着、活用に焦点を当て、読み方のポイント・コツを会得し、リーディングスキル向上を目指す。エッセーの内容について自分の意見をまとめる。

授業計画

- ・およそ500語から成るさまざまなジャンルのエッセーを読む
- ・語彙・文法・構造の習得・定着を図る。
- ・スラッシュリーディング、パラグラフリーディング、各段落のトピックセンテンスおよびMain Idea (主要部) とDetails (詳細部) を含むリーディング手法習得の訓練をする。
- ・各Chapterの内容に関するテーマについてディスカッションをし、意見をまとめる。

前期

- 第1回 リーディング力診断：速読
- 第2回 リーディング力診断：スキミング
- 第3回 リーディング力診断：リーディングストラテジー
- 第4回 Main Idea (重要情報・概念)
- 第5回 Supporting Details (詳細情報)
- 第6回 Signal Words (アイディアの結びつき)
- 第7回 Reference (指示語)
- 第8回 パラグラフ構造1 (比較と対照)
- 第9回 パラグラフ構造2 (原因と結果)
- 第10回 パラグラフ構造3 (時間順序)
- 第11回 パラグラフ構造4 (空間順序)
- 第12回 Summarizing (要約) のストラテジー
- 第13回 視覚情報の効果的利用
- 第14回 事実と意見の区別
- 第15回 リーディング判断力を試す：Term-end Test

後期

- 第1回 表紙、タイトル、挿絵から内容予測
- 第2回 各パラグラフのトピックセンテンス
- 第3回 内容を予測しながら読む
- 第4回 知らない単語は前後の文脈から予測
- 第5回 読み飛ばす単語
- 第6回 Main Idea (主要部) を捉える
- 第7回 Details (詳細部) を捉える
- 第8回 Main Idea と Details を区別
- 第9回 目的や文章の種類により読む速さを変える
- 第10回 シグナルワードとパラグラフ構成
- 第11回 行間を読む
- 第12回 タイトルと内容の関係
- 第13回 事実と著者の意見を区別
- 第14回 まとめと質疑・応答
- 第15回 リーディング判断力を試す：Term-end Test

教材

テキスト：Andrew E. Bennett, Reading Fusion 1 (南雲堂)

成績評価方法

40% Presentation during the class (Reading, Translation, Exercises, Statement of opinion)

40% Term-end Tests,

10% Assignment, Check Tests

10% Attendance

その他

- ・Test, Assignment等の追再試はありません
- ・講義時間に相当する自宅・自己学習必須。辞書必携
- ・授業計画はクラスの進度によって変更することがあります

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・国内外の英字新聞やインターネットに掲載された様々なニュース 15 項目を選びまとめたテキストを読む。各章 300 語程度の読み切り形式で、メディアで使われている英語に慣れ、情報の要点を即座に把握できる読解力・速読力を養っていく。
- ・各章にはリーディング課題だけでなく、写真を描写する英文の選択、要約文の穴埋め、短い英文内容の理解を問うリスニング問題も用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

授業計画

- ・ 1 つの章を 2 回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第 1 回	オリエンテーション	第16回	第 7 章 (健康と生産性)
2 回	第 1 章 社会・観光	17回	第 8 章 社会
3 回	第 1 章 (手ぶら観光)	18回	第 8 章 (第二の人生)
4 回	第 2 章 健康	19回	第 9 章 健康
5 回	第 2 章 (果物アレルギー)	20回	第 9 章 (デジタルと健康)
6 回	第 3 章 社会	21回	第 10 章 情報・技術
7 回	第 3 章 (食品ロス)	22回	第 10 章 (サイバー攻撃)
8 回	第 4 章 芸術・技術	23回	第 11 章 国際・政治
9 回	第 4 章 (アニメ)	24回	第 11 章 (報道写真)
10回	第 5 章 科学技術	25回	第 12 章 労働
11回	第 5 章 (ロボコン)	26回	第 12 章 (ガラスの天井)
12回	第 6 章 科学技術	27回	第 13 章 医療
13回	第 6 章 (デジタル技術)	28回	第 13 章 (東西医学)
14回	第 7 章 経済	29回	第 14 章 社会・経済
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

『ソーシャル・キーワード—メディア英語で社会を読み解く』 (三修社)

成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7 : 3

講義科目 :独語 I	単位数 :2
マーケット略 :〔独語 I〕	学習形態 :選択必修科目
担当 :竹添 敦子	

講義のねらい

- ・ ドイツ語はローマ字読みができれば発音できます。学び始めが楽なことばです。
- ・ 発音をきちんとできるようになること、ごく初歩のドイツ語を用いてコミュニケーションができることを目的とします。
- ・ 映像を見て、応用力を養うことを試みます。
- ・ 平易な初級文法の範囲内で会話練習と反復繰り返しに徹し、確実な基礎力をつけます。

授業計画

第1回	ドイツ語圏の話・発音 (挨拶)	第16回	前期の復習・確認 (便利な表現)
第2回	ドイツ語の綴り (発音)	第17回	ドイツの旅 (前置詞の格支配)
第3回	自己紹介 (動詞の人称変化)	第18回	応用練習 (前置詞と定冠詞の融合形)
第4回	応用練習 (動詞の位置・語順)	第19回	ドイツの旅2 (話法の助動詞)
第5回	2種類の「あなた」 (使い分け)	第20回	応用練習 (枠構造・manの使い方)
第6回	質問の練習 (職業・専攻など)	第21回	ドイツの旅3 (命令法・数字の応用)
第7回	応用練習 (決定疑問文・定冠詞)	第22回	応用練習 (分離動詞)
第8回	応用練習 (名詞の性と格)	第23回	ドイツの料理 (形容詞)
第9回	買い物 (不定冠詞、複数形)	第24回	応用練習 (再帰動詞)
第10回	お出かけ (動詞の人称変化2)	第25回	応用練習 (補足事項)
第11回	応用練習 (3格の確認)	第26回	ドイツのクリスマス (祝祭表現)
第12回	注文 (動詞の人称変化3)	第27回	ドイツの昔ばなし (動詞の三基本形)
第13回	応用練習 (人称代名詞)	第28回	独語Ⅱへの橋渡し (過去形)
第14回	ドイツあれこれ (補足事項)	第29回	独語Ⅱへの橋渡し (現在完了形)
第15回	まとめと確認 (試験)	第30回	まとめと確認 (試験)

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキスト 秋田静男・他『ドイツ語インフォメーション neu²』 (朝日出版社)
- ・ 辞書 講義冒頭で説明します。ただし、新たに購入する場合は『新アクセス独和辞典』 (三修社) が手ごろです。電子辞書は初学者には不向きです。

成績評価方法

- ・ 参加型授業のため出席を重視します。年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。
- ・ 前期、後期の試験 (50%)、小テスト等受講状況 (50%) を基準に判断します。

講義科目 : 独語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [独語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

初歩的なドイツ語文法を勉強します。文法の知識だけでなく、ドイツ語の読み方を身につけるため、音読の練習も重視します。

授業計画

第1回	授業ガイダンス、アルファベット	第16回	前期の復習
2回	第1課 ドイツ語のつづりと発音	17回	第7課 前置詞
3回	第2課 文の作り方(動詞の形)	18回	第7課 練習問題
4回	第2課 重要な動詞、語順の原則	19回	第8課 分離動詞、文のつなぎ方
5回	第2課 練習問題	20回	第8課 練習問題
6回	第3課 文の作り方(名詞と冠詞)	21回	第9課 助動詞を使った文
7回	第3課 練習問題	22回	第9課 練習問題
8回	第4課 冠詞の仲間	23回	第10課 動詞の過去形と過去分詞
9回	第4課 練習問題	24回	第10課 練習問題
10回	第5課 人称代名詞、目的語の語順	25回	第11課 現在完了形、受動態
11回	第5課 練習問題	26回	第11課 練習問題
12回	第6課 不規則動詞	27回	第12課 形容詞、比較表現
13回	第6課 練習問題	28回	第12課 練習問題
14回	復習	29回	復習
15回	「前期まとめ」と確認テスト	30回	「後期まとめ」と確認テスト

* 上記は予定です。実際の進み具合は受講生の理解度に応じて調整します。

* 学期末の確認テスト(各学期の内容をすべて含むテスト)の他、授業中に10～15分程度の小テストを行う場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

・教科書: 「プロムナード やさしいドイツ語文法 (PROMENADE Deutsch)」
(白水社)

・独和辞典

教科書と辞書は、両方とも必ず毎回持参してください。

辞書は初回の授業でいくつか紹介するので、その後で購入して下さい。

成績評価方法

- ・前期、後期とも、全15回の授業のうち10回以上の出席と、学期末の確認テストで60点以上取ることが単位取得の条件です。
- ・原則として前期・後期の確認テストの平均点に基づいて成績を出します。出席状況は上記範囲内であれば成績にプラスにもマイナスにも影響しません。
- ・各学期で欠席が5回を超えると、成績評価の対象外となります。(遅刻、早退は0.5回分とします。例えば欠席4回、遅刻3回は、5.5回欠席で不可です)

その他

- ・週一度の授業だけでは記憶が定着しにくいので、予習、復習をしましょう。
- ・知らない単語が出てきたら、自主的に辞書で調べる習慣をつけましょう。

講義科目 : 仏語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [仏語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 井出 勉	

講義のねらい

- ・フランス語の綴り字と発音の関係を学び、きちんと発音できるようになることを目指します。
- ・フランス語の基本的な文法と簡単な日常会話を覚える。
- ・実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を習得できるレベルまでの到達も目指します。

授業計画

第1回	フランス紹介・発音	第16回	所有形容詞、疑問形容詞
第2回	綴り字の読み方・挨拶	第17回	人称代名詞の強勢形、指示形容詞
第3回	発音練習・挨拶	第18回	～がある、～がしたいのですが
第4回	挨拶・自己紹介の仕方	第19回	定冠詞の縮約、国名
第5回	名詞の性と数・不定冠詞	第20回	補語人称代名詞（直目・間目）
第6回	形容詞①	第21回	代名動詞
第7回	形容詞②・指示代名詞	第22回	中性代名詞
第8回	動詞の活用・定冠詞	第23回	天気の見方と答え方
第9回	疑問文の作り方	第24回	時刻の見方と答え方、命令形
第10回	動詞持つ	第25回	部分冠詞①
第11回	否定文	第26回	部分冠詞②、カフェでの注文
第12回	数字・年齢	第27回	比較級
第13回	動詞行く・近接未来	第28回	複合過去①：過去分詞の作り方
第14回	疑問代名詞・動詞する	第29回	複合過去②
第15回	まとめと確認：試験	第30回	まとめと確認：試験

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田裕二『パリ-ボルドー』朝日出版社

辞書：講義冒頭で紹介

参考文献については講義中に紹介

成績評価方法

平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、期末試験70%
年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

その他

講義科目 : 中国語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 花尻 奈緒子	

講義のねらい

正しい中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語を学び、簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになる。また、単純な文を聞いて意味を理解できるようになる。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	第九課 モノを数える単位
2回	第一課 基礎発音1	17回	第九課 「～は…にある」
3回	第一課 基礎発音2	18回	第十課 前置詞
4回	第二課 基礎発音3	19回	第十課 経験を表す文
5回	第二課 基礎発音4	20回	第十一課 助動詞・仮定文
6回	第三課 「～は…です」	21回	第十二課 持続を表す文
7回	第四課 形容詞の文	22回	第十二課 進行を表す文
8回	第五課 動詞の文	23回	第十三課 「～より…だ」
9回	第五課 数の数え方	24回	第十三課 程度を表す補語
10回	第六課 「～それとも…？」	25回	第十四課 動作量を表す補語
11回	第六課 完了形	26回	第十四課 離合動詞
12回	第七課 金額の言い方	27回	第十五課 結果を表す補語
13回	第七課 二重目的語の動詞	28回	第十五課 可能を表す補語1
14回	第八課 年月日・時刻	29回	第十六課 方向を表す補語
15回	第八課 名詞述語文	30回	第十六課 可能を表す補語2

教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキストー中国語 I 基礎ー」

成績評価方法

出席および前・後期の期末試験

その他

予習復習を欠かさずに行うこと。

講義科目 :生活科学概論	単位数 :2
マーケット略 :〔生活科学〕	学習形態 :必修科目
担当 :生活科学科教員	学科共通

講義のねらい

生活科学とは、家政学から出発して生活全体を科学的に研究する学問であり、その対象は幅広い学問領域にわたるものですが、ヒトが社会のなかで生きていくうちに出会うさまざまな課題に対して、生活者の立場から総合的にとらえることを基盤としています。この科目が、担当教員がそれぞれの専門分野について、生活科学の観点から概論講義を行うことによって、本学科のめざす生活科学を理解することを目的にしています。

授業計画

1. 学科長・笠：オリエンテーションと図書館・情報処理実習室の利用説明 1
2. 学科長・笠：図書館・情報処理実習室の利用説明 2

(第一部：‘いのち’と‘暮らし’を科学する)

3. 南：‘生活の科学’とは何か
4. 東福寺：男女共同参画への誘い～これからの生き方を考える～
5. 武田：社会福祉の援助…相談の専門家とは？
6. 北村：障害をもって生活するとは
7. 木下：居心地の良い生活空間
8. 小野寺：住民参加とコミュニティ

(第二部：‘食’と‘健康’を科学する)

9. 相川：学生の運動栄養学～脳、骨、筋、脂肪、欲～
10. 山田：糖尿病と栄養と食事と運動について
11. 飯田：食卓のたんぱく質科学
12. 駒田：健康寿命と食生活
13. 阿部：ビタミンに関する栄養学
14. 杉野：ライフステージにおける食と健康
15. 橋本：(テーマは追って掲示する)

教材・テキスト・参考文献等

中根芳一著「私たちの生活科学」(理工学社)などがあるほか、担当教員からそれぞれ参考文献が紹介される。

成績評価方法

6回以上欠席すると、成績評価対象の資格がなくなる。

教員によってレポートや小テストなどが課される。それぞれの教員からの評価を総合して判定する。

講義科目 : 体育講義	単位数 : 2
マークシート略 : [体育講義]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大西 範和	

講義のねらい

健康が人生をよりよく生きるための基盤であることは誰もが知っており、人々の健康志向が高まっています。一方、健康や運動に関する情報は溢れていて、適切に選び、役立てることは難しくなっています。本科目では、特に運動についての生理学的な知識や考え方を学び、適切な情報をもとに健康づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てます。授業ではグループで課題解決を目指すTBL (Team based learning)をとり入れ、その達成度テストで成績を評価します。到達目標は以下の3点とします。

1. 健康づくりや運動に関する生理学的な用語や記述を理解できる。
2. 健康づくりや運動に関する生理学的な考え方の概要を説明できる。
3. グループワークにおいて他者の発言を尊重しつつ主体的に発言し、課題解決のために協調することができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション、体力と健康の関係、健康づくりの施策
2回	筋肉の構造と収縮の仕組み
3回	筋力を左右する要因と筋力トレーニング
4回	筋肉収縮のためのエネルギー
5回	運動と呼吸、換気の仕組みと呼吸の調節
6回	個人・グループ達成度テスト（第1回～第5回を範囲）
7回	運動と循環、心臓や血管の構造と機能
8回	運動と循環、心臓や血管の調節機構
9回	運動と水分の調節、腎臓による水分調節と飲水
10回	熱中症と体温調節
11回	個人・グループ達成度テスト（第7回～第10回を範囲）
12回	運動と栄養、糖質の消化吸収とその働き
13回	運動と栄養、タンパク質の消化吸収とその働き
14回	サルコペニアと運動、栄養
15回	個人・グループ達成度テスト（第12回～第14回を範囲）

教材・テキスト・参考文献等

朝山正己・彼末一之・三木健寿編著 「イラスト運動生理学」東京教学社

成績評価方法

3回の達成度テストの平均点で成績を評価する(100%)。各達成度テストは、3～5回の授業内容及び自己学習成果を評価する個人達成度テストと、同じ内容をグループで討議して解答するグループ達成度テストを行い、その得点の和をもとに各回の達成度テストの点数を算出する。

その他

意見交換が学ぶための重要な鍵です。自信がなくても積極的に話してください。聞く側は、正誤の判断に拘わらず話し手の話す努力を讃えましょう。

講義科目 : 体育実技	単位数 : 1
マーケット略 : [体育実技]	学習形態 : 選択科目
担当 : 高木 祐介	

講義のねらい

この授業では、誰でも気軽にできるスポーツを仲間と楽しむこと、マナーやルールを守り社会性を養うこと、運動が健康に及ぼす効果について学ぶことを目的とします。運動を継続することによって体力や精神力の維持・増進、肥満予防、社会性の向上等の効果が期待されます。しかしながら、継続することは簡単なことではありません。週に1回の体育実技を通して、運動を習慣的に行うことの意義を理解し、卒業後も続けていける考え方を培います。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（運動と体力・体重・疾病予防に関する話）
- 第2回 散歩（歩数と健康について）
- 第3回 ウォーキングによるエネルギー消費
- 第4回 体力テスト①
- 第5回 集団スポーツ①
- 第6回 集団スポーツ②
- 第7回 集団スポーツ③
- 第8回 体力テスト②
- 第9回 球技①（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第10回 球技②（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第11回 球技③（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第12回 球技④（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第13回 球技⑤（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第14回 体力テスト③
- 第15回 全体のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

指定教科書はなし。講義内容に応じて資料を配付します。

成績評価方法

- ①授業態度（意欲・関心・理解・協調性等）70%、コミュニケーション30%。
- ②5回以上の欠席は、評価の対象外とします。

その他

欠席をすることは、この授業の目標から離れてしまうこととなります。そのため、欠席はしないようにしてください。また、スポーツを楽しむためには仲間との協調が大切です。運動の技能が低くても、協調性があり、明るさがあれば、運動は楽しいものです。一方、運動の技能が高くても、協調性がない場合や状況を考えないプレイは、全体の雰囲気をつぶします。この授業では、そういった運動による社会性の向上を特に重要視しています。

講義科目 : 生命科学	単位数 : 2
マークシート略 : [生命科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 狩野 幹人	

講義のねらい

生命科学 (Life Science) は、21世紀の科学技術を担う重点分野の1つである。2003年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」に焦点をあてる。そして、タンパク質を中心に、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加え、生物学の基本的な枠組みを理解することを目的とする。

授業計画

第1部

1. 細胞の構造
2. 細胞の形質、機能
3. 細胞の活動
4. タンパク質の役割

第2部

1. 多細胞生物への展開 (1)
2. 多細胞生物への展開 (2)
3. 多細胞生物への展開 (3)

第3部

1. 免疫システム
2. 細胞の再生と死
3. 環境の認識、調節
4. 生物の進化と多様性

第4部

1. 生物多様性条約とは
2. 生命科学と知的財産 (1)
3. 生命科学と知的財産 (2)

教材・テキスト・参考文献等

- ①「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (第3版)、和田 勝、羊土社 (2015)」を教科書として用いる。また必要な補足資料を、講義の中で随時配布する。
- ②参考文献としては、
 - 生命科学については「分子生物学講義中継、井出 利憲、羊土社」シリーズ等が挙げられる。
 - その他、知的財産については「産業財産権標準テキストー総合編一、特許庁発行」や「産業財産権標準テキストー特許編一、特許庁発行」等が挙げられる。
 - その他、参考文献については、講義の中で随時紹介する。

成績評価方法

- ①毎回出席をとる。出席率70%以上を評価の対象とする。
- ②出席率およびレポート (2回を予定) により評価する。

その他

単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。

講義科目	: 自然と科学	単位数	: 2
マークシート略	: [自然科学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 松井 博和		

講義のねらい

身近な生活の中で体験したり，利用したりする自然現象や科学技術を理解してもらおう．その中で，いわゆる理系の人でも知らないようなことも織り交ぜ簡単な説明や実験器具をみてもらい理解してもらおう．講義の進め方は，授業内に計算問題を主とするレポートを毎回実施し，主体的に問題理解に取り組めるようにする．また，ニュースなどで科学に関して取り上げられれば，適宜授業に取り込む．

授業計画

第1回	長さ，速さ，時間などの単位について
2回	天体について（地球と月と太陽）
3回	天体について（恒星と惑星）
4回	機械機構について
5回	電気について（電流・電圧）
6回	電気について（電力量と生活）
7回	音について（周波数・音量・デシベル）
8回	音について（音声）
9回	光と色について（物理的説明）
10回	光と色について（光・色の科学的利用）
11回	生命と遺伝について
12回	人工知能について
13回	研究紹介
14回	天体について（宇宙と科学）
15回	自然と科学について

教材・テキスト・参考文献等

教材・テキスト等は特になく，適宜授業中にプリントを配布する．

成績評価方法

毎回の授業中レポートを書いてもらい 50 点満点の出席点とする（ただし，レポートを 7 回以上提出しない場合は成績を不可とする）．

期末試験を 50 点満点とする．

その他

講義科目 : 情報と科学	単位数 : 2
マークシート略 : [情報科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	教職選択科目(65期)

講義のねらい

情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報技術の中身を理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるよう指導する。

ITパスポート試験、及び、基本情報技術者試験対策となるように配慮する。

授業計画

第1回	コンピュータの歴史
2回	コンピュータの構成
3回	情報の表現1 (2進数)
4回	情報の表現2 (16進数、文字コード)
5回	論理回路
6回	ネットワーク1 (LANとWAN、無線LAN)
7回	ネットワーク2 (ネットワーク機器、TCP/IP)
8回	ネットワーク3 (WWW、電子メール)
9回	データベース
10回	アルゴリズムとデータ構造1
11回	アルゴリズムとデータ構造2
12回	プログラミング演習1 (変数、データ型)
13回	プログラミング演習2 (if文、for文、while文)
14回	プログラミング演習3 (応用)
15回	期末試験、まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書は使用しない予定
- ・適宜プリント等を配布

成績評価方法

- ・期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

その他

小テストを毎回実施するので、小テストを通して講義時間外でも復習するように。

講義科目	: 情報と社会	単位数	: 2
マークシート略	: [情報社会]	学習形態	: 選択科目
担当	: 笠 浩一朗		教職選択科目(65期)

講義のねらい

本講義は、三つの内容で構成されている。

一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ITの発達により、社会の生活様式は大きく変化し、誰もが簡単に情報を取得・発信できる世の中になっている。その一方で、個人情報の流出、ネット上での誹謗中傷・不法行為などの新たな問題が発生している。このような社会で、他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごす方法を解説する。

二つ目は、言語処理技術に関することである。現在、インターネット上を中心に、多くの言語データが蓄積されており、それらのデータに対して、言語処理技術を活用することで、多くのサービスが提供され、人々に利用されている。講義では、言語処理技術を用いたシステムの仕組みを紹介する。

三つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。

授業計画

第1回	インターネット概論
2回	ネットワーク利用におけるマナー
3回	個人情報とプライバシー
4回	電子商取引
5回	知的財産権・メディアリテラシ
6回	ネットワーク不法行為
7回	情報技術とセキュリティ
8回	情報倫理とリテラシ
9回	言語処理技術（文字コード、形態素解析）
10回	言語処理技術（構文解析、意味解析）
11回	言語処理技術を用いたシステム（機械翻訳）
12回	言語処理技術を用いたシステム（対話システム、情報検索）
13回	システム開発とマネジメント
14回	システム構成と故障対策
15回	まとめ

教材・テキスト・参考文献等

・教科書：大島他「ケースで考える情報社会」【第2版】 三和書籍

成績評価方法

出席をとる。結果を10%程度成績評価に反映させる。ただし、出席率が著しく悪い場合（1/3程度以下）は評価対象外とし、単位を認定しない。

毎回、課題を課す予定。その結果を90%程度成績評価に反映させる。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森田 賢太	

講義のねらい

現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

- 第1回 導入, コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版, 2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 真田 耕輔	

講義のねらい

現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

第1回	導入, コンピュータリテラシー
2回	コンピュータの基本操作
3回	Wordの基礎(1)
4回	Wordの基礎(2)
5回	Wordの基礎(3)
6回	Wordの基礎(4)
7回	演習 Wordのまとめ
8回	Excelの基礎(1)
9回	Excelの基礎(2)
10回	Excelの基礎(3)
11回	Excelの基礎(4)
12回	演習 Excelのまとめ
13回	資料を作る際の心構え(1)
14回	資料を作る際の心構え(2)
15回	総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版, 2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は、本読んだだけでは取得できず、実際に自分で手を動かして慣れることが大事である。そのため、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合はこの点に留意すること。

講義科目	: 情報処理実習 I	単位数	: 1
マーケット略	: [情報実 I]	学習形態	: 選択科目
担当	: 高瀬 治彦		

講義のねらい

現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

- 第1回 導入, コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』 noa出版, 2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	教職選択科目(65期)

講義のねらい

現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。そのコンピュータについての基礎知識を習得できるよう指導する。

特に、実際のアプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組むことで、パソコンの使用方法の基礎を習得できるよう指導する。

授業計画

- 第1回 実習室の利用方法とコンピュータの基本操作
- 第2回 Word の基礎 1（各部の名称）とタイピング練習
- 第3回 Word の基礎 2（ページ設定、文書入力、スタイル、脚注）
- 第4回 Word の基礎 3（表の作成、SmartArtグラフィック）
- 第5回 Word の基礎 4（図の作成、ヘッダーとフッター）
- 第6回 Word の基礎 5（段組み、数式）
- 第7回 Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）
- 第8回 Excel の基礎 2（絶対参照、関数、グラフ）
- 第9回 Excel の基礎 3（表計算の応用）
- 第10回 PowerPointの基礎
- 第11回 最終課題作成 1
- 第12回 最終課題作成 2
- 第13回 最終課題作成 3
- 第14回 最終課題発表
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

『MS OFFICE 2013を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、切田節子、三浦信宏、小林としえ、乙名健 共著、2014

成績評価方法

出席を毎回取り、成績評価に加味する。各課題の配点と出席点は下記のとおりである。

- Word課題：15点程度
- Excel課題：20点程度
- PowerPoint課題：10点程度
- 最終課題：40点程度
- 出席：15点程度

その他

- ・実習の講義は欠席するとついていけなくなります。欠席しないように。
- ・パソコンに不慣れな人は、講義の予習と復習を積極的にするように。
- ・パソコンに習熟した人は、追加の課題に取り組んだり、周りの人に教えたりすることで、さらに理解を深めるように。

講義科目 : 情報処理実習Ⅱ	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田中 通	

講義のねらい

- ITが社会基盤のインフラとして定着し、現在ではその上でのスキルだけでなく、コミュニケーションがより重視されてきている。そのような社会環境の中で、その双方の理解の助けとなる講義を目指す。
- コミュニケーションツールとして**blog**を用い、自らの行動によって変化する状況を、様々な角度から分析する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス, **blog**作成
- 第2回 **blog**のカスタマイズ, 画像入り記事の投稿, 授業用記事へトラックバック送信, **Evernote**を用いたリポートの共有
- 第3回 **Excel**へのアクセスデータ入力, **CMS**とは
- 第4回 **blog**を通じた相互交流
- 第5回 **HTML** (1)
- 第6回 **HTML** (2): コンピュータで扱う色について, ショートカット演習
- 第7回 **HTML** (3): 文字装飾, 画像表現, ハイパーテキスト
- 第8回 **HTML** (4): 内部リンク, 外部リンク
- 第9回 **HTML** (5): 相互リンク
- 第10回 **Excel** (1): 基礎, 連続データ入力, 計算, グラフ作成
- 第11回 **Excel** (2): 中級, 並び替え, フィルタ
- 第12回 **Excel** (3): データ合成, クロス集計
- 第13回 最終課題作成作業 (1): 各自でデータ解析
- 第14回 最終課題作成作業 (2)
Word: **Excel**との連携, 箇条書き, 表紙, 段組み等
- 第15回 最終課題作成作業 (3): 仕上げ作業, 査読

教材・テキスト・参考文献等

- 講義出席者に限りプリントを配布
- スクリーン出力

成績評価方法

- 出席状況と課題提出状況・内容から総合的に評価する。
- 最終課題は論文形式文書作成。E-Mailで提出。

その他

- 出欠確認と同時に状況報告の機会があるので、極力欠席しないこと。
- この授業は連続性のある実習です。欠席した場合は次回の実習までに欠席した実習の内容を自分で進めておいてください。能力が追い付いていなければ報告書もE-Mailで前日までに送っておくこと。

講義科目 :心理学	単位数 :2
マークシート略 :〔心理学〕	学習形態 :選択科目
担当 :中西 良文	

講義のねらい

日々の生活の中で、人は何らかの形で「こころ」を働かせている。そのため、「こころ」の働きについて理解することが、より良い生活に役に立つ場合もある。本講義では「こころ」の働きに関する様々なトピックを紹介し、「こころ」の働きを統合的に理解することを目指す。

授業計画

- 第1回 心理学とはどのような学問か
- 第2回 短期記憶の働き
- 第3回 長期記憶の働き(1)
- 第4回 長期記憶の働き(2)
- 第5回 短期記憶と長期記憶の連携
- 第6回 熟達するとはどういうことか
- 第7回 人は社会的な情報をどのように捉えるのか
- 第8回 印象形成
- 第9回 対人魅力(1)
- 第10回 対人魅力(2)
- 第11回 集団における人の行動(1)
- 第12回 集団における人の行動(2)
- 第13回 動機づけ(1)
- 第14回 動機づけ(2)
- 第15回 動機づけ(3)

教材・テキスト・参考文献等

授業内で参考資料を紹介する

成績評価方法

授業での活動への関与（私語なども評価の参考とする）や授業中に出される課題、試験の成績を総合的に判断して評価する。実施される試験は持ち込み不可で「理解を問う」問題が出される

その他

講義科目 : 環境論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義のねらい

環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義の目的は、生物多様性、地球温暖化、核エネルギーという3つの大きなテーマについて概観することである。

授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 地球温暖化のメカニズム
- 第3回 地球温暖化がもたらすもの
- 第4回 懐疑論について
- 第5回 地球温暖化にどう対応すべきなのか
- 第6回 核分裂と核融合
- 第7回 核分裂発電の仕組み
- 第8回 核エネルギー生産の利点と難点①
- 第9回 核エネルギー生産の利点と難点②
- 第10回 日本はなぜ「原発列島」と化したのか
- 第11回 生物多様性とは何か
- 第12回 生物多様性はなぜ大事なのか
- 第13回 生物多様性破壊の現状と背景①
- 第14回 生物多様性破壊の現状と背景②
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

成績評価方法

毎回小レポートを課し、それをもとに評価を行う。

その他

講義科目	:教育の基礎理論	単位数	:2
マークシート略	:[教育基礎]	学習形態	:選択科目
担当	:山田 全紀・藤枝 律子		

講義のねらい

教育の基礎理論は、教育が成り立つための土台、すなわち教育の本質（何か？）と根拠（何故か？）について広く学び、現代教育を支えている理論を検証することをねらいとする。言い換えれば、現在行われている教育に対して、例えば、学校や教師について、「何故学校へ行くのか？」「教師とは何か？」というような最も基礎的な問いを立てることが肝要であり、これはわれわれの常識を問い直すことでもある。

授業計画

第1回	シラバス概観
2回	学校とは何か？教師とは何か？という基礎的な問い
3回	ギリシア哲学の学校とキリスト教の学校
4回	ソクラテスの教師とスコラの教師
5回	近代教育から現代教育への展開
6回	J. J. ルソーの教育観－消極教育と積極教育－
7回	I. カントの人間学と教育観
8回	近代教育批判と現代的人間観
9回	西洋と東洋の人間観・世界観－宗教と教育の関係－
10回	現代教育における個人の問題
11回	実存思想とO. F. ボルノーの教育観
12回	人間教育と日本人教育の間
13回	教育基本法改正と新しい学習指導要領
14回	現代日本の教育改革と求められる日本国民像
15回	まとめ－自己への問い－

教材・テキスト・参考文献等

講義中に資料を配布する。

成績評価方法

レポートおよび平常点による

その他

講義科目 : 発達と学習	単位数 : 2
マークシート略 : [発達学習]	学習形態 : 選択科目
担当 : 東福寺 一郎	

講義のねらい

- ①生涯発達の観点から誕生から死に至るまでの発達的变化について、ビデオを多用しながら解説します。
- ②行動分析的立場と認知心理学的立場から人の学習について、パワーポイントを使用しながら講じます。
- ③それらを通じて、人がどのように成長発達していくのかについて、心理学的な考え方を身につけることを目的とします。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進み具合によって若干の修正を加えることがあります。また、職務上休講が重なる可能性がありますが、その場合には補講（場合によっては土曜日に関講）で対応します。このことをわきまえたうえで、履修を決定してください。

- 第1回 人間の発達の可塑性 ビデオを通し、人間の発達の不思議について学ぶ。
- 第2回 人間の発達の可塑性 第1回のつづき。
- 第3回 発達の研究法 発達の考え方と研究方法について
- 第4回 乳児期 新生児期を含め、生後1歳半位までの発達的变化。
- 第5回 幼児期 パーソナリティの基本が形成される幼児期の心理学的特徴。
- 第6回 児童期 小学校の時期にあたる児童期の発達的变化。
- 第7回 青年期 自我同一性の達成を中心にした青年期の心理学的特徴。
- 第8回 成人・高齢期 成人後死に至るまでの発達的变化
- 第9回 教育とカウンセリングの関係について、ビデオを見ながら考える。
小テスト実施。
- 第10回 学習の諸相 学習の定義。学習にかかわるさまざまな知見。
- 第11回 行動分析の考え方 スキナーの行動分析の考え方について解説。
- 第12回 行動分析の考え方(2) プログラム学習を用いて前回の復習。
- 第13回 人間の記憶過程 認知心理学の立場から記憶情報処理について解説。
- 第14回 認知心理学と教育 認知心理学が教育に果たす役割について(ビデオ)
- 第15回 まとめと最終試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しません。参考文献は講義の中で適宜紹介します。

成績評価方法

- ①出席を毎回取ります。6回以上欠席した場合には評価の対象外です。
- ②小テスト20点、筆記試験80点とし、その合計により評価します。

その他(学生へのメッセージ)

毎回ビデオやパワーポイントを用いることにより、学生の興味を喚起したいと思います。これからの社会生活や家庭生活において有意義なものとなるようにしていきます。

講義科目 :生涯学習論	単位数 :2
マークシート略 :[生涯学習]	学習形態 :選択科目
担当 :長島 洋(りょうがん)	教職選択科目

講義のねらい

生涯学習は、生まれたときから死ぬときまでのながいスパンのなかで、学びを通して人と人がつながり、その学んだ成果を地域に活かすあい、それを評価しあう、そんな社会の実現に向けて取り組むものです。学んだ成果をどうやって社会に還元していくか それをテーマに講義を進めます。

だれもが、いつでも、生涯をとおして学ぶことにより、自分の生活や人生感が豊かになり、その学んだ力、成果を地域や学校、職場でどのように活かしていくかを学習します。特に、三重県を中心に自分のふるさとの課題解決にむけた生涯学習のあり方を、学びあい、実際の活動へとつながるよう学習します。

具体的には、生涯学習概論をはじめに学び、後半には、三重県内等のふるさとを見つめ直し、課題を考え、その課題解決にむけた生涯学習プログラムを立案、発表してもらいます。ふるさとや三重が輝けることを願って進めます。

授業計画

- ① 生涯学習の意義と生涯学習社会の構築
- ② 生涯学習・社会教育行政の展開
- ③ 生涯学習・社会教育指導者の役割
- ④ 地域社会と生涯学習の実際 事例研究
- ⑤～⑧自分たちの住んでいる（ふるさと・三重県等）まちでの実際の生涯学習事例を集め研究します。
- ⑨ 三重県内生涯学習関連施設の実際 総合文化センター社会見学
- ⑩ 学社融合（学校教育と社会教育の融合）学校支援と生涯学習
- ⑩ 人権教育と生涯学習
- ⑪ 家庭教育と生涯学習
- ⑫～ ふるさとの地域課題解決に向けた生涯学習プログラム立案
- ⑬ 地域課題解決のための生涯学習プログラムの発表・評価

教材・テキスト・参考文献等

その都度資料を配布します

参考文献は講義中紹介。

成績評価方法

毎回小レポート提出60%、生涯学習プログラム立案・発表等40%による出席重要。毎回レポートが得点に。レポートは必ず授業の最後に回収。5回以上欠席は評価の対象外。つまり無効になります。

その他

自分のまち・三重県内の生涯学習イベント事業に関心をもって資料等を集めてください。

講義科目 : 差別と人権	単位数 : 2
マークシート略 : [差別人権]	学習形態 : 選択科目
担当 : 上田 浩	

講義のねらい

現代社会において重視されるようになってきた基本的人権の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようなになっているのか、等の問題です。労働者の企業での無権利状態、男女差別などの人権をめぐる現状についても考えたいと思います。

授業計画

基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。さらに、日本国憲法や世界人権宣言、子どもの権利条約の内容について理解を深め、現代社会での生存権、労働権、教育権をめぐる人権の実態などを検討していきたいと思えます。

1. 現代社会と人権：授業概説
2. 近代的人権の成立の歴史
3. ロックの人権思想
4. 近代的人権の特徴と課題
5. 近代的人権の問題点
6. 人権の拡張の過程
7. 基本的人権と日本国憲法
8. 現代の人権の諸問題
9. 職場における人権
10. ワーキング・プアを考える
11. 男女賃金格差の現状
12. DVと女性の権利
13. 不登校・いじめと子どもの権利
14. 児童虐待と社会
15. まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。

参考文献については授業時に指示します。

成績評価方法

レポート試験を行い、授業態度と出席率によって評価します。

出席を重視し、授業内容について考えたことや意見を書いてもらいます。

6回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

レポート試験60%、出席・意見などの平常点40%

その他

講義科目 : ジェンダー論	単位数 : 2
マークシート略 : [ジェンダ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 松田 いりあ	

講義のねらい

この授業では、性別に関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的条件下で定着したものであることを、ジェンダー概念を通じて明らかにする。同時に性をめぐる二分法が世代を越えて伝えられる仕組みについても、生活感覚とともに理解することを目指す。

授業計画

- 第1回 はじめに：この授業の概要の説明
- 第2回 ジェンダーとは(1)
- 第3回 ジェンダーとは(2)
- 第3回 社会化(1)
- 第4回 社会化(2)
- 第5回 家族(1)
- 第6回 家族(2)
- 第7回 社会史とジェンダー
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 社会階級・階層とジェンダー
- 第10回 アンペイド・ワーク
- 第11回 メディアとジェンダー
- 第12回 サブカルチャーとジェンダー
- 第13回 身体とジェンダー(1)
- 第14回 身体とジェンダー(2)
- 第15回 まとめ：この授業をふりかえって

教材・テキスト・参考文献等

木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房）

成績評価方法

レポート70% 授業中課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 歴史学	単位数 : 2
マーケット略 : [歴史学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 望月 秀人	

講義のねらい

西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大航海時代と世界の一体化
- 第3回 「宗教戦争」と「世俗化」
- 第4回 封建制から「絶対王政」へ
- 第5回 「絶対王政」の意義と限界
- 第6回 出版資本主義と啓蒙
- 第7回 「市民革命」と近代国家
- 第8回 ナショナリズムと国境問題
- 第9回 工業化とその影響
- 第10回 第一次世界大戦の衝撃
- 第11回 大恐慌の時代
- 第12回 ファシズムの脅威
- 第13回 第二次世界大戦
- 第14回 社会主義と冷戦
- 第15回 グローバル化とその課題

教材・テキスト・参考文献等

テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。

成績評価方法

試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。5回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。

その他

言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。

講義科目	: 地理学(地誌を含む)	単位数	: 2
マークシート略	: [地理学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 山崎 智博		

講義のねらい

- ・ 私たちが生活している地域はそれぞれが様々な特徴を持っています。本講義ではそうした地域がどのようにして形成されてきたかをみていくことにより、地域の特徴や抱えている問題等を考えていきます。

授業計画

- 第1回 地域・都市の形成（ガイダンス）
- 第2回 明治維新と都市の近代化
- 第3回 市区改正と都市計画法の制定①
- 第4回 市区改正と都市計画法の制定②
- 第5回 関東大震災復興都市計画①
- 第6回 関東大震災復興都市計画②
- 第7回 戦時期の都市・地域①
- 第8回 戦時期の都市・地域②
- 第9回 戦災復興計画①
- 第10回 戦災復興計画②
- 第11回 現代地域開発政策の展開①
- 第12回 現代地域開発政策の展開②
- 第13回 地域の現状と課題①
- 第14回 地域の現状と課題②
- 第15回 まとめと確認（筆記試験）

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキストは使用しません。
- ・ 参考文献はその都度紹介しますが、以下に2冊挙げておきます。
藤井正・神谷浩夫編著「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房 2014年
平岡昭利・野間晴雄編「近畿 I 地図で読む百年」古今書院 2006年

成績評価方法

- ・ 試験（85%）、出席（15%）を基準に判断します。

その他

- ・ 地図、写真、映像等を適宜使用する予定です。
- ・ 津市など三重県に関する内容も折に触れ取り上げる予定です。

講義科目 : 哲学	単位数 : 2
マークシート略 : [哲学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 吉本 陵	

講義のねらい

二十世紀後半になって急速に発展してきた医療技術によって、私たちは生と死の意味について再考する必要に迫られている。本講義では、生命倫理学ないし医療倫理学の基本的な論点を確認し、そこから浮かび上がる私たちの生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス&イントロダクション
- 第2回 哲学的・倫理的なものの考え方
- 第3回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅰ)
- 第4回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅱ)
- 第5回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅲ)
- 第6回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅰ)
- 第7回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅱ)
- 第8回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅲ)
- 第9回 ケアの倫理 (Ⅰ)
- 第10回 ケアの倫理 (Ⅱ)
- 第11回 ケアの倫理 (Ⅲ)
- 第12回 脳死の倫理的問題 (Ⅰ)
- 第13回 脳死の倫理的問題 (Ⅱ)
- 第14回 脳死の倫理的問題 (Ⅲ)
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。

成績評価方法

論述形式の試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。五回以上の欠席が認められた場合には評価の対象外とする。

その他

講義形式で行う。各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。

講義科目 : 文学 I	単位数 : 2
マークシート略 : [文学 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

文学作品の中には、ただ読まれるだけでなく、他の芸術家の創作意欲を刺激するようなものが多々あります。この講義では有名なヨーロッパの文学作品を取り上げて、その作者や時代背景について学び、ヨーロッパの文学や文化に関する知識を深めたいと思います。作品世界のイメージを広げるために、講義ではそれらの作品や作者に関する解説だけでなく、文学から派生した音楽や映像作品などの鑑賞も行う予定です。

授業計画 ()は取り上げる予定の作家、作品

第1回	ガイダンス、資料配布
2回	シェイクスピアの悲劇 (『ロミオとジュリエット』)
3回	『ロミオとジュリエット』2
4回	『ロミオとジュリエット』3
5回	シェイクスピアの喜劇 (『夏の夜の夢』)
6回	『夏の夜の夢』2
7回	民衆本の世界 (『ティル・オイレンシュピーゲル』)
8回	伝説と文学1 (民衆本『ファウスト博士』)
9回	伝説と文学2 (モリエール『ドン・ジュアン』)
10回	文学とオペラ1 (メリメ『カルメン』)
11回	文学とオペラ2 (デュマ・フィス『椿姫』1)
12回	『椿姫』2
13回	映画化された文学 (ベルンハルト・シュリンク『朗読者』1)
14回	『朗読者』2
15回	まとめとテスト

* 上記は予定です。取り上げる順序、内容等は変更される場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は事前に (あるいは当日) 印刷して配布します。
参考文献等は授業中に紹介します。

成績評価方法

出席状況とテストで評価します。授業内容に関連する短い課題文、感想、質問などを記入して提出してもらい、出席確認をします。全15回の授業のうち、10回以上出席しない場合は評価の対象外となります。

期末テストでは、授業で取り上げた作品についてテーマを事前にいくつか提示し、その中から一つを選んで800~1000文字程度の小論文を書いてもらいます。

その他 講義を聞くだけでなく、自ら作品を読んで味わってください。

講義科目 : 文学Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [文学Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

18世紀から20世紀までのドイツ文学作品から、毎回テーマに沿った作品をいくつか取り上げ、解説してゆきます。ドイツ文学にはあまりなじみがないという人が多いと思いますので、作家やその作品が生まれた時代背景などから説明します。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学作品の味わい方に正解はありません。読む人それぞれが等身大で楽しめば良いのです。授業では作品をより親しみやすく読むための糸口を示してゆきたいと思います。

授業計画 ()は取り上げる予定の主な作品

第1回	ガイダンス、資料配布、ドイツ文学概観
2回	ドイツ文学概観
3回	ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (人物と時代背景)
4回	ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (『ファウスト』)
5回	ハインリヒ・ハイネの詩と音楽
6回	古いしがらみからの脱却 (W. ミュラー『冬の旅』)
7回	「ドイツ」を求める機運 (『グリム童話』)
8回	童話の解釈 (『グリム童話』2)
9回	イメージから生まれる言葉 (J. ケルナー『クレクソグラフィ』)
10回	不条理な文学 (フランツ・カフカ『変身』『訴訟』など)
11回	子供の文学1 (エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』)
12回	子供の文学2 (J. シュपीーリ『ハイジの修行遍歴時代』)
13回	時間の文学 (M. エンデ『モモ』)
14回	自分を見つめる文学 (P. ジュースキント『コントラバス』など)
15回	まとめとテスト

* 上記は予定です。取り上げる順序、内容等は変更される場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は事前に (あるいは当日) 印刷して配布します。
参考文献等は授業中に紹介します。

成績評価方法

出席状況とテストで評価します。授業内容に関連する短い課題文、感想、意見、質問などを記入して提出してもらい、出席確認をします。全15回の授業のうち、10回以上出席しない場合は評価の対象外となります。
期末テストでは、授業で取り上げた作品についてテーマを事前にいくつか提示し、その中から一つを選んで800~1000文字程度の小論文を書いてもらいます。

その他

講義を聞くだけでなく、自ら作品を読んで味わってください。

講義科目 : 比較文化論	単位数 : 2
マーケット略 : [比較文化]	学習形態 : 選択科目
担当 : 竹添 敦子	

講義のねらい

- ・ 西欧と日本を比較しながら、身近な文化現象を再考し、その背後にあるものとの考え方、考え方の違いを探ります。本年度は「余暇・娯楽」を軸に東西文化を比較します。
- ・ 当たり前だと思っている現象も、歴史をさかのぼると興味深い事実が見えてきます。また私たちの「常識」について、一度立ちどまってみると、思いもかけない発見があります。こういったことを確認するために、毎回映像を使用しながら、現在の私たちの文化を考えます。
- ・ 「伝統」や「慣習」のことで片づけられていた現象を再検討します。自分自身の感覚と理解を再確認する作業を通じ、「文化」とは何かを考察します。

授業計画

第1回 文化を比較するとは	第9回 日本の娯楽（旅と温泉）
第2回 おとぎ話の比較（日本の昔話）	第10回 西欧の娯楽（旅行と教養）
第3回 おとぎ話の比較（西欧の昔話）	第11回 日本の娯楽（花鳥風月と演芸）
第4回 余暇と娯楽（「見る」と「する」）	第12回 西欧の娯楽（カフェ文化）
第5回 日本の娯楽（歌舞伎・舞踊）	第13回 近代の余暇と文化（百貨店）
第6回 西欧の娯楽（オペラ・バレエ）	第14回 現代の余暇と文化（遊園地）
第7回 日本の娯楽（カルタ・釣り）	第15回 まとめと確認（試験）
第8回 西欧の娯楽（競馬・スポーツ）	

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 使用しません。
- ・ 自ら参考文献を探ることが重要な作業となります。指示に従い、いかに資料を探し、いかに客観的、批判的に資料を分析できるかを学んでください。

成績評価方法

- ・ 小レポート（毎回実施、70%）と最終試験（論述式、30%）を基準に評価します。
- ・ 出席を重視します（毎回、講義の最後に小レポートを課します。講義内容を確認し、かつ自分の意見をまとめるものです。この小レポートによって出席の確認をします。小レポートは採点して（5点満点）をつけて返却します。講義開始までに当日のレジюмеとともに各自とっておいてください。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。4回休んだ時点で名前の下にイエローラインがはいります。5回休むとレッドラインとなります。レッドライン以降欠席があると無資格となります。

講義科目 : 英会話	単位数 : 2
マークシート略 : [英会話]	学習形態 : 選択科目
担当 : John Dykes	

講義のねらい

This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The aim is to provide a foundation in the structure of the language, gradually building students' understanding of the basic grammar, vocabulary and idioms required for general communication in English. Each unit of the textbook will take approximately 2 classes to complete and regular mini-tests will be given to monitor students' progress. Students ***must*** work together to practice the spoken language.

ONLY ENGLISH IS USED ON THIS COURSE.

授業計画

1. Introductions and orientation.
2. Hello Everybody.
3. Meeting people.
4. The world of work.
5. Take it easy!
6. Where do you live?
7. Can you speak English?
8. Review & end of first semester test
9. Then and now.
10. A date to remember.
11. Food you like!
12. Looking Good!
13. Life's an adventure!
14. Have you ever?
15. Review & end of second semester test

教材・テキスト・参考文献等

American Headway 1 (2nd edition. ISBN 978-0-19-472945)

By Liz and John Soars (Oxford University Press)

成績評価方法

Work in class – 60%

(A positive attitude and a willingness to try are essential for conversation)

Tests – 40%

その他

講義科目 : 英語講読	単位数 : 2
マークシート略 : [英語講読]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・ 現代社会が抱える様々な問題を提起し、「いかに対応するか (HOW TO)」を論じたレベル別リーディングテキストを使用する。各章読み切り形式で、約 400 語にまとめられ、TOEICスコア 400～600 点程度をおおよその基準にしている。
- ・ 各章にはリーディング課題だけでなく、語彙や文法、イディオムに関連した問題や、正答を音声で確認する問題なども用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

授業計画

- ・ 1つの章を2回ないし3回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	第6章 オンライン学習
2回	第1章 学習スキルと習慣	17回	第6章
3回	第1章	18回	第7章 スマホ活用
4回	第1章・第2章	19回	第7章
5回	第2章 締切の遵守	20回	第7章・8章
6回	第2章	21回	第8章 対人関係
7回	第3章 旅行スキル	22回	第8章
8回	第3章	23回	第9章 会議の効率化
9回	第3章・第4章	24回	第9章
10回	第4章 飛行恐怖症	25回	第9章・第10章
11回	第4章	26回	第10章 宣伝広告
12回	第5章 うそ発見器	27回	第10章
13回	第5章	28回	第11章 チップについて
14回	第5章・6章	29回	第11章
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

『Readers' Forum 1 HOW-TO ENGLISH』 (南雲堂)

成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7 : 3

講義科目	: 総合英語	単位数	: 2
マークシート略	: [総合英語]	学習形態	: 選択科目
担当	: 大蔵 香代子		

講義のねらい

- ・本講義ではTOEICテスト問題演習を通して、TOEICテストのスコアアップを目指す。
TOEIC問題を教材として、語彙力・文法・リスニング・リーディングを含む総合的な英語コミュニケーション、英語運用能力の向上を目指す。

授業計画

- ・TOEIC頻出重要語句の意味・発音・品詞・文の構造の基礎力を養成する。
- ・TOEICテストの出題傾向に慣れ、各パートの攻略法を学ぶ。
- ・TOEICテスト形式を解き、学習内容の確認・定着を図る。
- ・ユニット毎に復習テストまたは自己学習課題を提出する。

前 期		後 期	
第 1 回	イントロダクション Listening/Reading攻略法	第 1 回	Unit 11(1)
第 2 回	Unit 1(1)	第 2 回	Unit 11(2)
第 3 回	Unit 1(2)	第 3 回	Unit 12
第 4 回	Unit 2(1)	第 4 回	Unit 13
第 5 回	Unit 2(2)	第 5 回	Unit 14
第 6 回	Unit 3(1)	第 6 回	Unit 15
第 7 回	Unit 3(2)	第 7 回	Unit 16
第 8 回	Unit 4	第 8 回	Unit 17
第 9 回	Unit 5	第 9 回	Unit 18(1)
第10回	Unit 6	第10回	Unit 18(2)
第11回	Unit 7	第11回	Unit 19(1)
第12回	Unit 8	第12回	Unit 19(2)
第13回	Unit 9	第13回	Unit 20(1)
第14回	Unit 10	第14回	Unit 20(2)
第15回	Practice Test (1)	第15回	Practice Test (2)

教材・テキスト

- ・「Step-by-Step Prep for the TOEIC L&R TEST THE TOEIC Step 2 Intermediate Course」(株式会社アルク大学教材編集部)
- ・40% Practice Tests (1)(2)
- ・40% 復習テスト・課題提出
- ・20% 出席・授業参加

その他

- ・復習テストの追・再試及び課題提出期限の延長はありません。
- ・講義時間に相当する自宅・自己学習時間を必要とします。辞書必携。
- ・授業計画はクラスの進捗によって変更することがあります。

講義科目 : 独語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [独語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

前期では独語Ⅰで扱えなかった文法の続きを勉強して、基礎的な文法を一通り学んだ後、後期はドイツ語検定試験の対策問題や、平易なドイツ語の読解などを行いながら、文法の定着をはかります。リスニングの練習も行い、ドイツ語検定試験4級～3級程度の力をつけることを目標とします。

授業計画

第1回	ガイダンス、独語Ⅰの復習	第16回	前期の復習
2回	独語Ⅰの復習2	17回	ドイツ語検定対策(4級)1
3回	独語Ⅰの復習3	18回	ドイツ語検定対策(4級)2
4回	独語Ⅰの復習4	19回	ドイツ語検定対策(4級)3
5回	過去形と過去分詞	20回	ドイツ語を読む1
6回	現在完了形1	21回	ドイツ語を読む2
7回	現在完了形2	22回	ドイツ語を読む3
8回	受動態	23回	ドイツ語検定対策(3級)1
9回	形容詞	24回	ドイツ語検定対策(3級)2
10回	形容詞の比較表現	25回	ドイツ語検定対策(3級)3
11回	再帰代名詞	26回	ドイツ語を読む4
12回	zu不定詞	27回	ドイツ語を読む5
13回	関係代名詞	28回	ドイツ語を読む6
14回	接続法	29回	ドイツ語を読む7
15回	まとめとテスト	30回	まとめとテスト

* 上記は予定です。授業の進度、内容は受講者の理解度に応じて調整します。

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 独和辞典(独語Ⅰで使用したもの)
- ・ 教材は必要なものを印刷して配布します。
- ・ 参考文献: 独語Ⅰで使用した教科書。その他は授業時に随時紹介します。

成績評価方法

1. 前期、後期ともに10回以上授業に出席して勉強すること。
 2. 学期末テストで平均60点以上とること。
- 1.と2.の条件を両方満たせば単位取得できます。
評価は各学期末のテストの点数に基づきます。

その他

辞書は必ず毎回持参して、気になる単語は自主的に調べてください。
独語Ⅰの単位を取得していることを前提に授業を行いますので、ドイツ語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。

講義科目 : 仏語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [仏語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岩本 篤子	

講義のねらい

昨年度の仏語Ⅰに続き、様々な場面での基本的な会話表現を学ぶ。

授業計画

第1回	仏語Ⅰで習ったことの確認	第16回	13課 過去のことを話す
2回	仏語Ⅰの対話文復習	17回	13課の続き
3回	8課 興味を述べる	18回	13課の続き
4回	8課の続き	19回	2種類の過去形の確認
5回	9課 誘う	20回	過去形の練習問題
6回	9課の続き	21回	仏検4級をめざして2
7回	9課の続き	22回	14課 仮定する
8回	綴り字の読み方と音節の復習	23回	14課の続き
9回	10課 天候と時刻	24回	仮定表現の練習問題
10回	10課の続き	25回	重要な動詞の復習
11回	仏検4級をめざして1	26回	基本動詞を用いた役に立つ表現
12回	11課 数量を表す	27回	役に立つ表現の確認
13回	11課の続き	28回	仏語Ⅱの対話文復習
14回	11課の続き	29回	講読部分の読み復習
15回	12課 比較する	30回	全体の復習と小テスト最終回

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田 裕二「パリ・ボルドー」 朝日出版社

成績評価方法

- ①授業中に行う小テストの平均点が60点以上あれば、合格とする。
- ②6回以上欠席すると単位を認めない。

その他

せっかく始めたフランス語をやめてしまうのはもったいないことです。仏語Ⅰの成績は全く関係ありません。必ず何かの役に立つと思って、頑張つて続けてみましょう！（フランス語初心者の方の受講はご遠慮ください）

講義科目 : 中国語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 花尻 奈緒子	

講義のねらい

中国語Ⅰで学習した文法事項を踏まえ、簡単なリスニングと会話のトレーニングを行う。語彙や表現を増やし、中国語の背景にある文化や社会についても学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	第八課 航空券の予約1
2回	第一課 基礎発音1	17回	第八課 航空券の予約2
3回	第一課 基礎発音2	18回	第九課 定期便の遅延1
4回	第二課 基礎発音3	19回	第九課 定期便の遅延2
5回	第二課 基礎発音4	20回	第十課 虎の威を借る狐1
6回	第三課 基礎発音5	21回	第十課 虎の威を借る狐2
7回	第三課 基礎発音6	22回	第十課 虎の威を借る狐3
8回	第四課 あいさつ1	23回	第十一課 ウサギとカメ1
9回	第四課 あいさつ2	24回	第十一課 ウサギとカメ2
10回	第五課 自己紹介1	25回	第十二課 運転できますか1
11回	第五課 自己紹介2	26回	第十二課 運転できますか2
12回	第六課 日本の春はどう？1	27回	第十三課 何をしてるの？1
13回	第六課 日本の春はどう？2	28回	第十三課 何をしてるの？2
14回	第七課 ご飯は食べた？1	29回	第十四課 差不多先生1
15回	第七課 ご飯は食べた？2	30回	第十四課 差不多先生2

教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト—中国語のことばと文化—」

成績評価方法

出席および前・後期の期末試験

その他

予習復習を欠かさず行うこと。中国語Ⅰとセット履修も可能です。

講義科目	: 地域史	単位数	: 2
マークシート略	: [地域史]	学習形態	: 選択科目
担当	: 鈴木 えりも		

講義のねらい

- ① 三重地域の近世・近代の歴史を学ぶために必要な基礎知識を身につける
- ② 三重地域が近世・近代にどのような特徴を持つ地域であったのか考える
- ③ 史料を基礎としてそこから何が読みとれるのかを学び考える
- ④ 自分の育った地域の歴史に関心を持つ
- ⑤ 文献に基づいて自分の考えをまとめる方法を身につける

授業計画

- 第1回 講義の進め方、時代の区切り
- 第2回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 1
- 第3回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 2
- 第4回 三重地域の諸蕃
- 第5回 海運と河村瑞賢
- 第6回 近世の三重地域周辺の物流と伊勢商人の活躍
- 第7回 三重地域の村と町
- 第8回 三重地域の街道と宿場
- 第9回 伊勢神宮の近世とおかげまいり
- 第10回 近世の人々の暮し
- 第11回 近代のはじまり
- 第12回 三重地域の地租改正
- 第13回 三重地域の一揆
- 第14回 三重地域の自由民権運動
- 第15回 三重地域の災害

受講生の希望する事柄を取入れた講義を1回は行い、希望内容によって上記の適当な回と差替える。また学生の理解程度によって回数を増やしたり、講義の順序を入換えることもある

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義中に配布するプリントに即して講義を行う
参考文献は講義中に取上げた内容に即して紹介する

成績評価方法

レポートによって評価する。課題及び評価基準は講義中に随時伝達する
出欠はとるが、評価の参考とするにとどめる

その他

レポートの書き方・評価基準について、聞きのがす学生が多い。講義を欠席した場合は講義内容を出席者に確認するなど、各自注意を怠らないこと
欠席した場合、講義中に配布した資料を入手することを怠らない
講義に取入れてほしい内容、理解できなかった点等を発言するなどの積極性を望む

講義科目	:自治体行政特論	単位数	:2
マークシート略	:〔自治行政〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成		

講義のねらい

この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定している。

法経科では行政法、行政学、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目があるが、それらとあわせて受講することにより、現在の地方行財政に対する理解が深まることを期待している。

生活科学専攻では、地域政策論、地域福祉論Ⅰ、地域福祉論Ⅱ、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があるが、それらをあわせて受講することにより、現在の地方行政に対する理解が深まることを期待している。

特に公務員を志望する学生には、行政の現場で何が行われているのかを理解する格好の機会となると思われる。

授業計画(予定 順番は変更されます)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 津市の政策について(政策財務部政策課)
- 第3回 津市の教育について(教育委員会事務局)
- 第4回 文化・スポーツについて(スポーツ文化振興部)
- 第5回 産業振興(商工業/観光)について(商工観光部)
- 第6回 産業振興(農林水産業)について(農林水産部)
- 第7回 都市計画について(都市計画部)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 津市議会見学
- 第10回 財政について(政策財務部財政課)
- 第11回 環境行政について(環境部)
- 第12回 津市の福祉について(健康福祉部)
- 第13回 参加と協働のまちづくりについて(市民部)
- 第14回 自治体経営(市長)
- 第15回 最終まとめ

- 毎回の講義を聞いて、その概要、感想などをまとめた「講義ノート」を提出する。
- 6月津市議会を傍聴し、レポートを提出する。

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書・参考文献等の指定はない。毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。

成績評価方法

- ・出席状況、講義ノートの提出状況、議会傍聴レポートなどを総合して評価する。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

講義科目 : キャリア形成セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [キャリア]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・自分のこれからの人生をいかにとらえ、いかに生きていくのかを考えます。
- ・「自分を知る」ことから始め、「社会を知る」ことへとつなぎます。
- ・職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。
- ・本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます。(講師は毎回変わります。)
- ・具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。
- ・全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。
- ・毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。
- ・1年生の履修を原則とします。

授業計画

- ・講師の都合などによって前後することがあります。

第1回	キャリアとは何か(ガイダンス)
2回	自分を見つめる(自己分析をキャリア形成にいかそう)
3回	働くことの意味
4回	働くことの意味
5回	国際協力という仕事
6回	栄養士の現場で働く
7回	福祉の現場で働く
8回	建築士として働く
9回	企業から求められる人材とは
10回	働くことの意味
11回	労働者をとりまく環境を知る
12回	人生設計を考える
13回	地方公務員として働く
14回	地域を知る、地域で生きる
15回	まとめ(最終レポート作成)

教材・テキスト・参考文献等

- ・各講師より配布されるレジュメ、資料を使用します。

成績評価方法

- ・出席が基本です。出席状況や毎回の小レポート、最終レポートなどの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。
- ・5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

講義科目	: 農林体験セミナー	単位数	: 2
マークシート略	: [農林体験]	学習形態	: 選択科目
担当	: 石原 洋介		

この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を通じ、自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的にしています。

①農場コースと、②演習林コースの2つのコースを設けます。6月に募集を行い、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。なお、食費として実費が必要です。

(1) 農場コース 【土は生きている】 8月下旬実施予定

講義のねらい

- 土と食料生産の関係について地域特産物を素材にして包括的な理解を深めるための技術的経験を積む。

授業計画

- 生物資源学部付設農場で2泊3日にわたって講義、実習、体験学習を行います。
(第1日目) 第1回 授業の概要説明／第2回 地域特産農産物の概要／第3回 サイズの栽培管理／第4回 世界と日本の食料事情 (ナイトセミナー)
(第2日目) 第5回 イネの収穫／第6回 肉牛の肥育管理／第7回 豆腐作り／第8回 食の安全・安心と社会 (ナイトセミナー)
(第3日目) 第9回 茶の加工／第10回 温州ミカンの栽培管理／第11回 うどん作り／第12回 授業の総括

成績評価方法

- レポート70% 実習態度20% 出席10%の評価を総合判断する。

(2) 演習林コース 【森は生きている】 9月上旬実施予定

講義のねらい

森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場で山地・森林・溪流の意義を理解する。また、林業の実際と林産加工の実践を学ぶ。

授業計画

- 生物資源学部付設演習林で2泊3日にわたって講義、実習、体験学習を行います。
(第1日目) 演習林の概要解説、諸注意事項／森林の多面的機能について林内学習／天然生林・二次林の植生観察／人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学
(第2日目) 映画WOODJOB!ロケ撮影と日本の森林・林業の課題学習／林業体験：人工林での小径木間伐／林産加工実習：コースター加工または丸太ベンチ製作／BBQ：野外活動＋木質資源のエネルギー活用と環境について学ぶ！／野生動物の被害観察
(第3日目) 環境学習：涼しい溪流環境散策とふりかえり学習／レポート作成／WOODJOB!ロケ地、御神木、木材市場などを経由し帰学

成績評価方法

- レポート、学習態度、出席などを総合的に評価する。

講義科目	:食と観光実践	単位数	:2
マークシート略	: []	学習形態	:選択科目
担当	:石原 洋介		

講義のねらい

- ・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に参加し、三重大生とともに受講することになります。
- ・開講形態は、合宿型（去年は2泊3日）です。全日程に参加することが受講の条件となります。
- ・本講義では、三重県をフィールドとして、「食と観光」をテーマに、現場見学とグループワーク、ディスカッションを実施し、地域課題の発見とそれに対する分析・考察を行います。
- ・今年度の実施内容の詳細は後日揭示にて発表します。
- ・本講義は通常の履修登録とは異なり、6月に履修希望者を募集し、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。

講義科目	: 次世代産業実践	単位数	: 2
マーケット略	: []	学習形態	: 選択科目
担当	: 石原 洋介		

講義のねらい

- この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に参加し、三重大生とともに受講することになります。
- 開講形態は、合宿型（昨年は2泊3日）です。全日程に参加することが受講の条件となります。
- 本講義では、三重県をフィールドとして、「次世代産業」をテーマに現場見学とグループワーク、ディスカッション、実証実験を実施し、地域課題の発見とそれに対する分析・考察を行います。
- 今年度の実施内容の詳細は後日揭示にて発表します。
- 本講義は通常の履修登録とは異なり、6月に履修希望者を募集し、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。

講義科目 : 住生活論	単位数 : 2
マークシート略 : [住生活論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目

講義のねらい

人間の生活にとって欠かせない存在である住まいが、風土や家族、社会的・文化的条件など、生活を取り巻く諸条件との関係によって、これまで歴史的にどのように形成されてきたか、また、家族形態の多様化や高齢化、情報化など現代の住生活が抱える課題を理解し、今後の住生活のあり方を考察する。

授業計画

- 1) 住まいと風土 (1) 世界の住まい
- 2) " (2) 日本の住まい
- 3) 住まいの歴史 (1) 近代以前
- 4) " (2) 近代以降
- 5) 住まいと生活様式 (1) 起居様式
- 6) " (2) 食事・入浴慣習
- 7) 住まいと家族 (1) ライフスタイル
- 8) " (2) ライフサイクル
- 9) 住まいの快適性 (1) 室内環境
- 10) " (2) 維持管理
- 11) " (3) 福祉
- 12) 住まいと地域 (1) コミュニティ
- 13) " (2) 共同秩序
- 14) " (3) 団地再生
- 15) まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

随時、資料を配付する

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・レポートにより評価する（授業時間内に適宜行う）。

その他

講義科目 : 食生活論	単位数 : 2
マージン略 : [食生活論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山田 徳広	

講義のねらい

本講義では、食は単に生物的に『食べる』行為というだけではなく、社会生活全般に影響を及ぼして来た事を理解する。

授業計画

- 第1回 講義：「栄養の基礎」,「三重県の食生活」
- 第2回 講義：「鉄の大切さ」,「運動と肥満」
- 第3回 DVD：スーパーサイズ・ミー①
- 第4回 DVD：スーパーサイズ・ミー②
- 第5回 講義：「魚を食べよう」
- 第6回 DVD：人間は何を食べてきたか
『第1集 一滴の血も生かす～肉～』
- 第7回 講義：「食と人間」
- 第8回 講義：「食材の起源」
- 第9回 講義：「宗教と食事」,「世界の食事」
- 第10回 講義：「日本食」
- 第11回 講義：「食糧問題を考える」
- 第12回 講義「ラーメンに見る明治維新後の日本の食生活の変遷」
- 第13回 講義「三重県の特産物の開発について」
- 第14回 講義「食に関する質問に答えます」
- 第15回 最終確認試験

教材・テキスト・参考文献等

適宜配布する

成績評価方法

平常点と最終確認試験によって評価する。

その他

わからないことがあったら、気軽に質問してください。

講義科目 : 社会学	単位数 : 2
マークシート略 : [社会学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 松田 いりあ	

講義のねらい

21世紀の現代、19世紀から20世紀にかけて社会を支えてきた条件が再編される時期を迎えている。この授業では、かつて自明と思われてきたことがらを社会的に検討し直すことによって、21世紀の社会でともに生きる方法を探究していく。

授業計画

- 第1回 はじめに：この授業のねらいの説明
- 第2回 社会学とは何か（1）：伝統社会・近代社会・現代社会
- 第3回 社会学とは何か（2）：社会問題と社会学
- 第4回 自我と社会
- 第5回 家族とライフコース
- 第6回 人口の変化と地域社会
- 第7回 ジェンダーという視点
- 第8回 都市的生活とコミュニティ
- 第9回 グローバル化とエスニシティ
- 第10回 社会集団・組織
- 第11回 社会階級・階層
- 第12回 社会構造と社会変動
- 第13回 現代社会のゆくえ
- 第14回 この授業のまとめ
- 第15回 筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著『社会理論と社会システム』
(MINERVA社会福祉士養成テキストブック) ミネルヴァ書房

成績評価方法

筆記試験70% 授業内課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目	: 社会調査論	単位数	: 2
マークシート略	: [社会調査]	学習形態	: 選択科目
担当	: 安藤 直樹		

講義のねらい

本講義では、社会調査の中でも質問紙（調査票）を用いた調査が行われるプロセスについて紹介していきます。そして、具体的な作業を通して、調査を実施するのに必要な基本的知識と方法を身につけていきます。

また、講義で取り上げる事例をもとに、社会科学的な考え方も養っていきたいと思います。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進行状況によって変更することもあります。また、やむをえず休講とした場合には補講を行う予定です。

- 第1回 オリエンテーション（シラバスの内容確認）、社会調査とは
- 第2回 調査の企画と設計①（問題の設定、情報収集の方法）
- 第3回 調査の企画と設計②（仮説の設定）
- 第4回 調査の企画と設計③（測定と尺度水準）
- 第5回 質問紙の作成①（質問文の作成）
- 第6回 質問紙の作成②（回答形式）
- 第7回 質問紙の作成③（質問紙の構成）
- 第8回 サンプルingの考え方と実際（標本調査とサンプルing）
- 第9回 調査の実施とデータ化①（調査の方法）
- 第10回 調査の実施とデータ化②（コーディングとエディティング）
- 第11回 データのまとめ方①（1つの変数の特徴を記述する）
- 第12回 データのまとめ方②（2つの変数の関係を記述する）
- 第13回 データの分析①（母集団の特徴について推測する－推定－）
- 第14回 データの分析②（母集団の特徴について推測する－検定－）
- 第15回 結果のまとめ方（報告書の書き方）

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、必要な資料を適宜配布します。参考文献については授業の中で紹介します。

成績評価方法

出席状況（40%）とレポート（60%）により成績を評価します。授業では毎回出席を確認します。特別な理由なく、出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象外となりますので、注意してください。レポートの内容や提出方法については授業の中で詳しく説明します。

その他

データを扱う際に電卓を使用するので、事前に準備しておいてください。電卓を使用する時期については授業の中で指示します。

質問はいつでも受けつけますので、わからないことがあれば遠慮なく聞いてください。

講義科目	:ヘルスカウンセリング論	単位数	:2
マーケット略	:[ヘルスカ]	学習形態	:選択科目
担当	:二ノ村 玲子		

講義のねらい

クライアントの健康管理を従来のコンプライアンス行動（医療者側からの望ましい行動からQOLに重点を置いたセルフケア行動に変化させる援助方法であるヘルスカウンセリングの視点、方向、姿勢、手順の習得と心因性疾患のメカニズムを解いていくために必要な心理学的理論や食行動理論を習得し実際の相談に役立つ力を持たせていく。

授業計画

- 第1回 現代家族の構造の変化と社会文化との関連
- 第2回 ヘルスカウンセリングの定義と目的
- 第3回 ストレスと病気についての解説
- 第4回 人格・心の形と働き
- 第5回 精神発達段階を精神分析的観点から説明
- 第6回 ライフサイクル上の危機
- 第7回 併用可能な精神療法と適応範囲
- 第8回 食行動理論の解説と一般的発達
- 第9回 ヘルスカウンセリングの展開と技法の説明
- 第10回 同上
- 第11回 ロールプレイ
- 第12回 同上
- 第13回 カウンセリングのコツと注意点
- 第14回 家庭内力動がクライアントに与える影響
- 第15回 まとめとレポート

教材・テキスト・参考文献等

ヘルスカウンセリングのプリントを随時配布していく。
参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法

毎回出席と取り、5回以上の欠席は評価の対象外とする。
出席、ロールプレイ、レポート、まとめを通して自己成長への支援の構えを評価の対象とする。

その他

健康ブームの昨今、多彩な情報が飛び交っている中で自分自身の心と体の健康をこの講義を通して自己決定、自己決定の大切さを考えて頂ければと思います。

講義科目 : 化学	単位数 : 2
マークシート略 : [化学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山崎 賢二	

講義のねらい

「食」にたずさわる資格を取得するためには、多くの専門科目を学ばなければなりません。その基礎となる「化学」の知識を身につけることは必要不可欠です。食べ物に関する化学の知識を中心に、高校まで化学をあまり勉強してこなかった学生にも、わかりやすく親しみやすい講義を心がけます。

授業計画

第1回	第1章	食品の中身を見る－物質の成り立ちと構成元素
第2回	第1章	食品の中身を見る－物質の成り立ちと構成元素
第3回	第2章	食品中の原子、分子、イオンの重さ
第4回	第2章	食品中の原子、分子、イオンの重さ
第5回	第3章	食品の状態とその変化
第6回	第3章	食品の状態とその変化
第7回	第4章	食品とエネルギー－生体内の化学エネルギー
第8回	第5章	食品内で起こる変化－化学反応と化学反応式
第9回	第5章	食品内で起こる変化－化学反応と化学反応式
第10回	第6章	食品中の濃度を考える－溶液の濃度とその表し方
第11回	第6章	食品中の濃度を考える－溶液の濃度とその表し方
第12回	第7章	食品中の有機化合物とその働き
第13回	第7章	食品中の有機化合物とその働き
第14回	第8章	食品中の無機化合物とその働き
第15回	第8章	食品中の無機化合物とその働き

上記8つの章、34の節の中から抜粋して解説します。

第8回目に前期中間試験、第15回目に前期末試験を行います。

教材・テキスト・参考文献等

- ・テキスト「わかる化学・知っておきたい食とくらしの基礎知識」
松井徳光・小野廣紀著、化学同人発行、ISBN 978-4-7598-0920-6
- ・プリント「知っておきたい食べ物の話」（社）日本化学工業協会

成績評価方法

- ・出席状況把握のため、毎回食物に関するクイズや小テスト等を行います。
- ・出席20%、前期中間試験40%、前期末試験40%で評価します。
講義を欠席しないようにしましょう。

その他

- ・テキストは各自で購入してください。
- ・プリントは配布します。

講義科目 : 数理科学	単位数 : 2
マークシート略 : [数理科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

講義のねらい

本講義では、微分・積分の基本を復習から始めて、「平均値の定理」、「テイラーの定理」など重要な定理についても紹介する。さらに、偏微分、重積分、微分方程式についても基本的な考え方について解説する。

授業計画

第1回	微積分とは
2回	数列と関数の極限(1)
3回	数列と関数の極限(2)
4回	微分法とその応用(1)
5回	微分法とその応用(2)
6回	微分法とその応用(3)
7回	積分法とその応用(1)
8回	積分法とその応用(2)
9回	2変数関数の微分(1)
10回	2変数関数の微分(2)
11回	2変数関数の重積分(1)
12回	2変数関数の重積分(2)
13回	微分方程式(1)
14回	微分方程式(2)
15回	期末試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書: 江川博康「大学1・2年生のためのすぐわかる数学」(東京図書)

参考文献: 馬場敬之ら「スバラシク実力がつくと評判の微分積分キャンパス・ゼミ」(マセマ出版社)

成績評価方法

- ・ 期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・ 小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・ 出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・ 5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

その他

高校の「数学Ⅱ」、及び、「数学Ⅲ」で微分、積分を習っていない学生は、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」の微積分の内容を予習しておくことが望ましい。

講義科目 : 統計学	単位数 : 2
マークシート略 : [統計学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 宮西 基明	

講義のねらい

- ・大量のデータを整理し、全体の性質を読み取る能力を身につけます。
- ・平均値、標準偏差の求め方、グラフの作成方法を修得します。
- ・統計解析で得られる数値の意味、正規分布、母集団と標本など統計に関する法則、確率と統計について理解を深めていきます。

授業計画

- 第1回 代表値：最頻値、中央値、平均値
- 第2回 ばらつきを表す量：範囲、平均偏差、標準偏差
- 第3回 度数分布表の作成
- 第4回 ヒストグラム、平均値と標準偏差の概略値の求め方
- 第5回 様々な分布の形、正規分布
- 第6回 標準正規分布、正規分布表の見方
- 第7回 正規分布の標準化と個数の推定
- 第8回 母集団と標本、標本の選び方、乱数
- 第9回 t分布、t分布表の見方
- 第10回 標本からの推定、平均値の信頼区間
- 第11回 Σ を用いた計算
- 第12回 カイ2乗分布、カイ2乗検定
- 第13回 二項分布と正規分布
- 第14回 回帰直線と相関
- 第15回 まとめと筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：石井俊全著『意味がわかる統計学』ベレ出版。
- ・参考書：入門書として大村平著『今日から使える統計解析』講談社
- ・より専門的な内容の参考書を揃え自主的に学習することを希望します。
- ・随時プリントを配布します。

成績評価方法

- ・欠席は5回以内とし、それ以上は評価の対象外とします。
- ・成績は小テスト30%、筆記試験70%として評価します。
小テストは10回程度を予定しています。小テストは練習と理解度の確認と平常の取り組みも考慮して成績に加点していきます。

その他

- ・平方根を求めることができる電卓を用意して下さい。
- ・解説と練習を適宜組み合わせ進めていきます。毎回出席をとります。欠席、遅刻のないように注意して下さい。

講義科目	: 日本国憲法 I	単位数	: 2
マークシート略	: [日本憲 I]	学習形態	: 選択科目
担当	: 飯島 滋明		

講義のねらい

私たちが日常生活を営む中で憲法の存在を意識することは、ほとんどないといってもよいだろう。例えていうならば、憲法とは、人体にとっての水や空気のようなものなのかもしれない。そして、単にそのことからすれば、私たちが憲法について日常的に意識することがないというのは、ある意味健全な社会にあるということになりそうである。

しかし、果たして本当にそうだろうか。水や空気は汚染されれば、それはその瞬間から人体に悪影響を及ぼし始め、人はそれを早晚身体で知覚することになる。けれども、同じく水や空気にあたるはずの憲法への侵害は、私たちが憲法に無関心である中で、憲法が保障する市民の基本的人権に対して日常的かつ潜在的に行われている場合も往々にしてありうるのではないだろうか。それについて敏感であるためには、なによりも憲法という法規範が、そもそもどのような本質をもち、どのような内容・構造になっているかを常日頃から理解しておくことが不可欠となる。

この講義では、できるだけ身近な事件や問題を手がかりとして、日本国憲法が私たちの日常生活にどのようにかかわっているのかを検証していくことを目的とする。

授業計画

- 第1回 憲法とはなにか
- 第2回 日本国憲法の制定の意義
- 第3回 死刑の是非について
- 第4回 平和主義の意義
- 第5回 平和主義の現実
- 第6回 人権の種類と性質
- 第7回 人権の享有主体
- 第8回 包括的人権
- 第9回 人権の私人間効力
- 第10回 平等について
- 第11回 思想・良心の自由
- 第12回 信教の自由と政教分離①
- 第13回 表現の自由①
- 第14回 表現の自由②
- 第15回 試験

教材・テキスト・参考文献等

榎澤幸広・奥田喜道編『憲法未来予想図』(現代人文社、2014年)

成績評価方法

筆記試験の評価を基本として、その他不定期に実施する小レポートなどを加味しながら総合的に判定する。出席はとらないが、正当な理由なく欠席した際に生じた不利益については、救済の対象としないので注意すること。

その他

「自由とは、他人を害さないあらゆることをなしうること」(1789年「フランス人権宣言」4条)というのが法の基本です。講義中の私語や携帯電話には厳格に対処します。

講義科目 : 社会保障法	単位数 : 2
マークシート略 : [社会保障]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川崎 航史郎	

講義のねらい

病気、障害、高齢、失業、育児、介護、労災などは、誰にでも生じ、これらをきっかけに容易に貧困に陥る危険がある。これらの状態に遭遇した場合でも、人間らしい生活を送ることを権利として保障するために、憲法は、生存権を保障した。社会保障法は、憲法25条生存権規定を受け、年金、医療、介護、雇用、労災保険などの社会保険制度や福祉サービス提供の仕組みを整え、生活保障を実現する法分野である。本講義は、人々の社会保障に対する権利構造と国等の社会保障実施・生存権保障義務について理解することを目的とする。

講義は、リアクションペーパーを用いて①予習②予習個所の講義③講義中、2・3の課題を示し、回答を記入する④質問や感想、復習なども記入、⑤次週以降に講師から回答を行う、という流れで行います。教科書の予習とまとめがほぼ毎週あります。

授業計画

- 第1回 権利としての社会保障受給の意義
- 第2回 社会保障の成立と発展①イギリス
- 第3回 社会保障の成立と発展②日本
- 第4回 国際化と外国籍の社会保障受給権
- 第5回 社会保障法の保障方法(社会保険、社会福祉、社会手当、公的扶助)
- 第6回 生活保護法①生活保護の実態
- 第7回 生活保護法②生活保護の給付構造
- 第8回 生活保護法③保護の補足性
- 第9回 労災補償①労災への使用者の責任
- 第10回 労災補償法②労災保険の給付内容
- 第11回 医療保障①医療制度と医療保険
- 第12回 医療保障②医療保険の給付内容
- 第13回 所得保障①年金保険の構造
- 第14回 所得保障②年金保険の給付内容
- 第15回 試験

教材・テキスト・参考文献等

講義の最初に指示します。

成績評価方法

筆記試験70%、ペーパーへの記述内容30%。

その他

積極的な授業参加ができるように、予習をすることが重要です。「労働法」と「社会福祉論」も受講することが望ましいです。自分自身や家族、友人などが必ず社会保障に関係をしています。その人から生活相談を受けたと想定し、どう答えるべきかを考えながら、講義を受けてください。

講義科目 : 地域政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [地域政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	

講義のねらい

地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。地域政策は、人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう活性化していくことを目的としている。本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、県内市町村などの具体例をあげながら講義し、地域の活性化を考えていく。

授業計画

第1回	ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン
2回	社会資本の歴史とその役割
3回	社会資本を取り巻く社会の状況
4回	今後の社会資本のあり方－維持管理－
5回	今後の社会資本のあり方－将来を見越した取り組み－
6回	社会資本に関する国土交通行政の方向
7回	観光立国と美しい国づくり
8回	中間試験
9回	東日本大震災からの復興に向けた取り組み
10回	美しく良好な環境の保全と創造
11回	安全・安心社会
12回	競争力のある社会
13回	心地よい生活空間づくり
14回	地域活性化の推進
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、試験、講義後のキーワード試験をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目	: 行政学	単位数	: 4
マークシート略	: [行政学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 立石 芳夫		

講義のねらい

少子高齢社会に対応するための安定した社会保障制度改革、財政危機に端を発する税財政改革、東日本の震災復興など、今日、日本の政治行政課題は山積している。

一般的にあって、現代社会ではさまざまな新しい社会問題が噴出して来るが、政府はそのなかから解決すべき行政課題を選択し、政策的に対応していくことになる。しかし、政府がさまざまな問題に関与すればするほど、行政制度や政策体系がいつそう複雑なものになり、その影響力も増大していく。そうなれば、一般の人びとがそれをコントロールできる余地は次第に縮小していく。

このように、巨大化・複雑化した現代行政の制度や仕組みを理解するうえで、行政学の学習は重要な水先案内人の役を引き受けてくれることになるだろう。なぜなら、行政とはさしあたり政府の活動を意味するが、行政学は、この政府の機構・組織とその活動について考察する学門だからである。いうまでもなく、行政の活動は、よかれ悪しかれ国民・市民の日常生活に大きな影響を及ぼす。それゆえ、行政について学習することは、現代人にとって「必須の教養」であるといってもいいだろう。

授業計画

下記の教科書とレジュメにそって講義を進める。テーマは、以下を予定。

- 1 講義の概要説明および序
- 2～9 福祉国家
- 10～15 行政国家、官僚制論
- 16～17 日本の政治行政制度の戦前と戦後
- 18～19 日本の議院内閣制における制度と実態
- 20～23 中央省庁とその再編
- 24～27 公務員制度とその改革
- 28～29 法案・予算の作成過程、まとめ
- 30 試験

教材・テキスト・参考文献等

テキストとして、新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2008年。初回の講義から使用する。

成績評価方法

試験で評価する。出欠はとらない。

その他

- * 政治行政のリアルな展開に関する主要情報は、日々ニュース報道で伝えられている。日頃からとくに新聞購読を心がけてほしい。
- * 本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（政治学原論・地方政治論・政治史・政治思想史）の履修を勧めたい。

講義科目 : 国際関係論	単位数 : 2
マーケット略 : [国際関係]	学習形態 : 選択科目
担当 : 三瀬 貴弘	

●講義のねらい

・国際社会においてまさに今、生じている様々な問題について、政治的、経済的、文化的、歴史的背景を含めて理解する。それらを、よりよく理解するために必要となる、国際関係論の基礎的な理論、考え方を習得する。さらに、理論と現実の相互作用に注目しながら、「国際公共財」の概念を用いて、ポスト冷戦期における日米関係について考察する。

●授業計画

・毎回の講義を以下の4部で構成する。それぞれに学生に求められる役割は異なる。出席した学生が、毎回「何か」を得られるような講義にしたい。講義を通じ「興味を持ったこと」について、自主学習することを強く期待する。

- ①15分間「頭の体操」……国際関係論に関する、面白くてためになるクイズをする。地理、歴史、文化に関する楽しい問題を予定。
- ②55分間「理論講義」……授業計画に沿って、穴埋め形式のレジュメを配布、それに沿い講義する。
- ③15分間「映像資料」……国際社会で現在起こっている問題を、映像資料を用いて講義する。
- ④5分間「感想記入」……講義に対する感想、要望や質問などを記入する。

・「②理論講義」の授業計画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1週 | オリエンテーション |
| 第2週 | 国際関係論と国際政治経済学の関係 |
| 第3週 | 国際関係論の誕生① |
| 第4週 | 国際関係論の誕生② |
| 第5週 | リアリズムとリベラリズム① |
| 第6週 | リアリズムとリベラリズム② |
| 第7週 | リアリズムの隆盛と行き詰まり① |
| 第8週 | リアリズムの隆盛と行き詰まり② |
| 第9週 | 学術的政経架橋① |
| 第10週 | 学術的政経架橋② |
| 第11週 | 覇権安定論① |
| 第12週 | 覇権安定論② |
| 第13週 | 相互依存論 |
| 第14週 | 国際政治学に基づくポスト冷戦秩序の構築 |
| 第15週 | 講義のまとめ |

・「③映像資料」は、日本の安全保障戦略、トランプの外交政策、中東問題、貧困・格差問題、世界遺産など。最新のトピックを随時取り入れる予定。

●教材・テキスト・参考文献等

参考文献 坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年。

●成績評価方法

レポートのみでの評価を予定している（レポート100%）。

●その他

・詳細なレジュメを毎回配布するので、講義中に理解できなかった場合は、家で読み直して復習すること。また講義に関連する（読みやすい）文献を、毎回数冊紹介し、希望者にその場で貸し出す「講義図書館」を実施する。講義で感じた「何かしらの引っかかり」を契機として、関心ある問題について自主的に勉強するサイクルを確立して欲しい。

講義科目	: 日本経済論	単位数	: 2
マーケット略	: [日本経済]	学習形態	: 選択科目
担当	: 鷲尾 和紀		

講義のねらい

我が国の経済環境変化は我々にとって生活そのものを変化させている。今日家計や企業を取り巻く環境にはさまざまな課題が表出している。これらの課題に取り組むためにどう経済を読み解くのか事例を交えて解説していく。また新聞記事や各庁が発行する白書の内容が理解できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回	ガイダンス
第2回	現代経済の仕組み
第3回	日本経済の姿・全体像
第4回	日本経済の歩み①~高度経済成長期
第5回	日本経済の歩み②~バブル経済
第6回	日本経済の歩み③~21世紀
第7回	日本経済の歩み④~次世代
第8回	企業活動①~企業とは、
第9回	企業活動②~グローバル化、IT化
第10回	労働①~今日の現状
第11回	労働②~若年者、女性の就労
第12回	少子高齢化と社会保障制度
第13回	医療・公的年金制度
第14回	経済と環境問題
第15回	まとめ、テスト

テキスト

浅子和美・飯塚信夫・篠原総一『入門・日本経済 第5版』 有斐閣,2015年3月

成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。

その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。

パワーポイントで授業を行った場合、スライドを携帯電話でカメラ撮影することは禁止しています。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

講義科目 :生活経営(生活経済学を含む)	単位数 :2
マーケット略 :[生活経営]	学習形態 :選択科目
担当 :南有哲	

講義のねらい

本講義においては、「生活」を総合的に理解する上で必須となる基本概念について検討した後、生命再生産の行き詰まりとしての「少子化」について、市場経済の仕組みや賃金論を踏まえた上で、生活者・主権者としての観点から考察していく。

授業計画

- 第1回 生活とは何か
- 第2回 生活と労働①
- 第3回 生活と労働②
- 第4回 市場経済の仕組み①
- 第5回 市場経済の仕組み②
- 第6回 賃金とは何か①
- 第7回 賃金とは何か②
- 第8回 現代日本の労働問題①
- 第9回 現代日本の労働問題②
- 第10回 格差社会について①
- 第11回 格差社会について②
- 第12回 少子化の進行とその背景①
- 第13回 少子化の進行とその背景②
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

教材・テキスト・参考文献等

講義中適宜指示する。

成績評価方法

- ・毎回の小レポート…50%
- ・試験…50%

その他

「生活科学概論」における南の担当分は、事実上本講義の一部分に該当する内容であるので、本講義聴講希望者は、特に注意して聴いておくこと。

講義科目 : 建築史概論	単位数 : 2
マークシート略 : [建築史論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 菅原 洋一	建築士指定科目

講義のねらい

建築の歴史や文化、技術とその広域的な影響関係について、日本における技術意匠生活の発展と、世界的な視野による比較検討の観点から概観し、基本的な理解を得る。また、現実の都市集落や建築から、歴史と伝統の基盤に立脚した環境創造のための手がかりを得ることを目的とする。

授業計画

第1回	ヴァナキュラー建築の材料と技術、空間
2回	モニュメントと工匠、建築家の誕生
3回	西洋宗教建築におけるモニュメントの系譜
4回	日本寺院建築における建築文化の伝播と変容
5回	日本神社建築に見る建築の記念性
6回	日本近世都市の誕生
7回	日本民家の建築と暮らし
8回	西洋の都市と住宅 1
9回	西洋の都市と住宅 2
10回	欧米建築文化との出会い
11回	日本近代都市住宅の誕生
12回	日本近代都市の展開
13回	近代工業社会と建築の変容
14回	歴史的建築と現代社会
15回	まとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書：『カラー版 図説 建築の歴史』、学芸出版社、
定価 本体3000円＋税、ISBN978-4-7615-3207-9

成績評価方法

出席及びレポート、発表により総合的に評価する。

その他

理解度により進捗の予定を変更することがある。

講義科目 :被服学	単位数 :2
マークシート略 :〔被服学〕	学習形態 :選択科目
担当 :西川 光子	

講義のねらい

私たちの生活において一番身近な環境である「衣」
衣服の役割、機能、人体に及ぼす影響、生産、管理、環境問題についての知識を修得することで、何を着用するべきか、経済的で心身共に健康な衣生活を営むことを目標とする。

授業計画

以下の予定で進めていくが、進度によって若干の修正を加えることがある。

第1回	被服の起源	ひとはなぜ装うのか
第2回	被服の変遷	民族服
第3回		被服の変化と流行
第4回	被服の素材	繊維の種類と特徴
第5回		布の性能
第6回	被服の選択	被服の色彩と消費性能
第7回	被服の設計	体型に合う被服
第8回	被服と健康	被服による気候調節
第9回		動作適合性
第10回	被服の管理	品質表示と洗濯
第11回		洗剤の種類と働き
第12回	被服と環境	被服の廃棄とリサイクル
第13回	進化する被服	機能性素材
第14回	身体機能と被服	ユニバーサルデザインと装い
第15回	まとめ・確認	

教材・テキスト・参考文献等

教科書：「消費者の視点からの衣生活概論」 井上書院

成績評価方法

- ① 出席を毎回取る。6回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ② 受講態度（20%）、レポート課題2回（20%）、試験結果（60%）により総合的に評価する。

その他

講義には、主に教科書を使用するが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

講義科目 : 社会保障論	単位数 : 2
マークシート略 : [社会保障論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	

講義のねらい

私たちの生活を支えている社会保障の成立過程の理解を土台とし、現状と課題を分かりやすく説明し体系的に社会保障を理解させることを目的とする。

あわせて現行の5つの社会保険のうち、本科目では医療保険、年金保険、雇用保険、労災保険を中心に講義する。

授業計画

- 第1回 社会保障、社会福祉の定義
- 第2回 社会保障の歴史～欧州編1～
- 第3回 社会保障の歴史～欧州編2～
- 第4回 資本主義社会と社会保障その1
- 第5回 資本主義社会と社会保障その2
- 第6回 年金保険その1（年金保険の現状）
- 第7回 年金保険その2（年金保険の課題）
- 第8回 年金保険その3（社会保障協定）
- 第9回 雇用保険の現状と課題
- 第10回 労災保険の現状と課題
- 第11回 働く時のルールを知る（雇用、労働の現状と課題）
- 第12回 公的医療保険と民間医療保険
- 第13回 皆保険体制下での医療保険の現状
- 第14回 医療保険の課題
- 第15回 これからの社会保障

*受講生の状況等によって進行速度を調整するため、内容を変更することがあります。

教材・テキスト・参考文献等

<教科書>

長友薫輝編著『長友先生、国保って何ですか』自治体研究社、2013年

<参考資料>

参考資料等は適宜、配付する。

成績評価方法

①毎回実施する小レポート、②2～3回程度実施する小テスト、③筆記試験を総合的に判断し評価する。

その他、学生へのメッセージ

本講義はみなさんにとって聞き慣れない用語を使用しなければなりません、みなさんにとってこの社会で生きる上で必要な知識、知見ばかりです。できるだけわかりやすく講義することに努めたいと思います。

講義科目	:社会心理学	単位数	:2
マークシート略	:[社会心理]	学習形態	:選択科目
担当	:南 学		

講義のねらい

人は社会の中で暮らしています。そこでは自己や他者をどのようにとらえるのかということが大きな問題となってきます。また、自分自身も社会からさまざまな影響を受けていますが、なかなかそれに気づくことはありません。この授業では、こうした問題について述べていきますので、ぜひ自分自身をとことんまで振り返る機会をつくってほしいと思います。

授業計画

以下の予定ですすすめていきますが、進み具合によっては修正していくことがあります。

- 第1回 社会心理学とは
- 第2回 外の世界と感じている世界のずれに気づく
- 第3回 信じるⅠ 人の信じているものは正しいのか
- 第4回 信じるⅡ 複雑な世界をどうとらえるのか
- 第5回 信じるⅢ 出来事のしくみをどう考えるのか
- 第6回 信じるⅣ 血液型性格判断（前編）～どうして当たる気がするのか
- 第7回 信じるⅤ 血液型性格判断（後編）～どうしてこれを好むのか
- 第8回 信じるⅥ 信じることの力
- 第9回 社会からの影響
- 第10回 周囲の人からの影響
- 第11回 住まいからの影響
- 第12回 意識できない処理の影響
- 第13回 ストレス
- 第14回 心理学からみた日本人論
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書は指定しない。参考文献は適宜紹介するが、半期でどれか1冊くらいは読んでみることに。

成績評価方法

- ①出席は毎回採ります。1/3以上欠席した場合は評価の対象外とします。
- ②出席点30点、筆記試験70点。

その他

プリントとスクリーンを用いて授業をすすめていきます。授業に「参加」することがスタートです。頭を使わず丸暗記や丸写しをするのではなく、授業中に話した概念や考え方を自分なりの言葉できちんと説明できるように理解することが重要です。

講義科目 : 公衆衛生学	単位数 : 2
マークシート略 : [公衆衛生]	学習形態 : 選択科目
担当 : 翠川 薫	栄養士免許必修科目

講義のねらい

公衆衛生は、医療の基礎であり現代社会は、公衆衛生のシステムの上に日々の生活の安全が保障されている。公衆衛生学の目標は、個人および集団の健康を守り増進する事にある。

本講義では、少子化や高齢化、生活習慣病など、わが国が抱える公衆衛生にかかわる様々な問題点を理解し、将来実践的に応用できる能力を身に着けることを目指す。感染症の歴史から現代の健康問題と社会制度に至るまで、具体的な最新データを基に、社会や環境が人の健康に与える影響、および保健制度を正しく理解し、栄養士としての職務を遂行するのにふさわしい知識を習得する。

授業計画

- ① 公衆衛生の概要
- ② 健康と公衆衛生
- ③ 公衆衛生の歴史
- ④ 公衆衛生の日本史
- ⑤ 環境と健康
- ⑥ 保健統計
- ⑦ 病症統計
- ⑧ 疫学と疾病
- ⑨ 疫学
- ⑩ 感染症とその予防
- ⑪ 主要感染症
- ⑫ 地域保健・母子保健
- ⑬ 学校保健・産業保健
- ⑭ 成人と高齢者保健・国際保健・精神保健
- ⑮ 全体のまとめと筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書：「公衆衛生学」中村信也 編著 同文書院
 参考図書：「国民衛生の動向」厚生統計協会発行

成績評価方法

出席点 10、提出物 10、授業態度 20、筆記試験 60、 合計 100

その他

章ごとにまとめのテストを実施します。欠席は5回までとし、6回以上の欠席者は正当な理由がない限り評価の対象外となります。

講義科目 : 健康管理概論	単位数 : 2
マーケット略 :〔健康管理〕	学習形態 : 選択科目
担当 : 増田 英成	: 必修科目
	栄養士免許必修科目

講義のねらい

小児科領域の医学的問題を取り上げ、小児期からの健康増進についての理解を深める事を目的とする。

授業計画

1. 子供の健康増進総論

- ① 食と栄養(母乳、離乳食を含む)
- ② 運動
- ③ 喫煙、受動喫煙
- ④ 小児の事故
- ⑤ 予防接種1
- ⑥ 予防接種2
- ⑦ 小児の難聴
- ⑧ 乳児突然死症候群
- ⑨ 小児の救急(急性疾患) 新たな感染症
- ⑩ 小児のアレルギー

2. 小児生活習慣病

- ① 小児肥満症
- ② 高血圧
- ③ 高脂血症
- ④ 糖尿病(1型、2型)
- ⑤ まとめ

教材・テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しない

成績評価方法

出席確認

レポート提出

出席点(60点) レポート作成(40点)

その他

講義はパワーポイントを用いて行う予定

講義科目	:社会福祉論	単位数	:2
マーケット略	:[社会福祉]	学習形態	:選択科目
担当	:石井 浩		栄養士免許必修科目

講義のねらい

私たちは、「生活と健康」を理解する上で、病気や障害が私たちの生活に様々な問題を引き起こすことや、社会のしくみを理解することを学ぶ必要がある。こうした生活の様々な問題をサポートする法律や制度・サービス等の社会福祉の理解を深める。社会福祉論では社会福祉について概論的に学び、他の専門職と協働し援助するための基礎的知識と方法を修得することをねらいとする。

目標

- ①日本の社会（少子高齢社会）の現状を知り、どのような課題があるのか、その対策をどうしていくのかを考える。
- ②社会福祉の理念、歴史、法制度、分野ごとの概論、実施体制などの理解を深め、「社会福祉とは何か」を考える。
- ③栄養士が病院や社会福祉施設などに従事したとき、福祉の視点を持ち、他の専門職と協働と連携する援助方法を考える。
- ④管理栄養士・栄養士の実際を知り、現場での役割を考え、実習や今後の進路を考える糧とする。

授業計画

1. 現代社会と社会福祉の動向
2. 社会福祉の歴史
3. 社会福祉の理念と概念
4. 社会福祉の法制度と行財政
5. 生活保護と社会保障
6. 高齢者福祉の概論
7. 障害者福祉の概論
8. 児童福祉の概論 (ゲスト講師予定)
9. 地域福祉論
10. ジェンダーと男女共同参画、家庭福祉
11. 社会福祉の実施体制
12. 社会福祉専門職と援助方法
13. 医療・福祉現場での栄養士・管理栄養士の実際 (ゲスト講師予定)
14. 医療現場での管理栄養士の実際、探求 (ゲスト講師予定)
15. 地域包括ケアシステムでの栄養士・管理栄養士の実際、まとめ

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

□教材・テキスト・参考文献等

- ・テキストは『五訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』岩松珠美・三谷嘉明編。
- ・毎回の講義では資料を配布する。

□成績評価方法

講義出席状況、講義態度、講義時の発言、小レポート、レポートを総合的に評価する。 *携帯電話使用禁止、私語・飲食禁止

□その他

講義だけでなく、ディスカッションし、みんなで考え、深める。受講生には積極的な参加を求める。ビデオ上映、具体的な事例も入れた講義にする

講義科目	: 解剖生理学	単位数	: 2
マークシート略	: [解剖生理]	学習形態	: 必修科目
担当	: 宇城 啓至		栄養士免許必修科目

講義のねらい

解剖生理学は、人体を構築する器官・臓器がどのような細胞・組織から成り立ち、いかにしてはたらき、調和のある一連の生体機能を営んでいるのかを理解する学問です。本講義では、まず全身の器官・臓器の構造を学習し、それら相互の関係（形態的・機能的なつながり方）を学習します。本講義の到達目標は、人体の構造や機能を系統的に理解し、栄養・健康科学を学ぶための基礎的知識を習得することです。。

授業計画

第1回	人体の構造／身体各部の名称と位置／体腔と臓器／器官系の役割
5回	細胞・組織の構成とはたらき／発生学のあらまし／外・中・内胚葉
3回	中枢神経系：大脳／間脳／中脳／橋／延髄／小脳／脊髄
4回	末梢神経系：脳神経 12 対／脊髄神経／自律神経系／神経節と神経叢
5回	筋骨格系 1：骨・軟骨・関節・靭帯・筋肉の構造と機能
6回	筋骨格系 2：頭部の骨と筋／脊椎／胸部・腰部・上肢・下肢の骨と筋
7回	消化器系 1：全体像／口腔／食道／胃／小腸／大腸／直腸と肛門／肝臓／胆のうと胆道／門脈／膵臓
8回	呼吸器系：肺と気管・気管支／呼吸の調節／発声
9回	循環器系 1：心臓／動脈／静脈／毛細血管／リンパ管
10回	循環器系 2：血液・造血器のはたらき／赤血球・白血球・血小板と血漿
11回	感覚器系：視覚／聴覚・平衡覚／嗅覚／味覚／皮膚
12回	腎尿路系：腎臓／尿管／膀胱／尿道
13回	生殖器系：男・女生殖器／女性の性周期と排卵
14回	内分泌系：ホルモンの分泌・構造・作用機序／視床下部・下垂体／甲状腺／副甲状腺／副腎皮質と髄質／膵島／卵巣・精巣
15回	全体のまとめと筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書：「なぜ？」からはじめる解剖生理学（松村讓児監修）ナツメ社 2017 年。

成績評価方法

筆記試験 90%と授業での質疑応答 10%

その他

教科書は、わかりやすいイラストを多用しており、器官/臓器の特徴が捉えやすいと思います。ただ、器官/臓器のかたちが写実的ではなく、機能についても簡単な説明にとどまっています。実際の形や詳しい機能を知るには、図書館などで解剖学の図譜・事典や詳しい解剖生理学の参考書をみてください。

講義科目 : 解剖生理学実験	単位数 : 1
マークシート略 : [解剖実験]	学習形態 : 選択科目
担当 : 米田 操	栄養士免許必修科目

講義のねらい

- ① ヒトの正常な構造や機能について、カラー 슬라이ドと組織標本を利用して、肉眼的、組織学的に理解する。
- ② 組織標本は顕微鏡を使用してスケッチする。
- ③ 正常状態と病的状態との違いについて理解する。

授業計画

- | | | |
|--------|---------------------------------|-----------------------|
| 第 1 回 | ヒトの正常と病的な構造と機能 1 | スライドによる解説 |
| 第 2 回 | ヒトの正常と病的な構造と機能 2 | スライドによる解説 |
| 第 3 回 | ヒトの正常と病的な構造と機能 3 | スライドによる解説 |
| 第 4 回 | 顕微鏡使用方法とスケッチのポイント | |
| 第 5 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 1 | 消化器 (食道) スライドによる解説 |
| 第 6 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 2 | 消化器 (胃) スライドによる解説 |
| 第 7 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 3 | 消化器 (小腸・大腸) スライドによる解説 |
| 第 8 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 4 | 消化器 (肝臓・膵) スライドによる解説 |
| 第 9 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 5 | 消化器 (肝臓・膵) スライドによる解説 |
| | (各臓器のスケッチを採点する) | |
| 第 10 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 6 | 泌尿器 (腎・膀胱) スライドによる解説 |
| 第 11 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 7 | 泌尿器 (腎・膀胱) スライドによる解説 |
| 第 12 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 8 | 表在 (甲状腺・乳腺) スライドによる解説 |
| 第 13 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 9 | 表在 (甲状腺・乳腺) スライドによる解説 |
| 第 14 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 10 | 循環器 (心臓・肺) スライドによる解説 |
| 第 15 回 | 顕微鏡標本の観察とスケッチ 11 | その他 (脳・生殖器) スライドによる解説 |
| | (五者択一問題、筆記テストを実施。各臓器のスケッチを採点する) | |

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。

- 参考図書：深山正久他編：はじめの一步のイラスト病理学
 伊藤隆編：解剖学講義 (第2版) (南山堂)
 下正宗編：病理アトラス (羊土社)

成績評価方法

スケッチレポート、五者択一問題、筆記テスト、出席率、実習態度で総合的に評価する。

その他

各臓器のHE (ヘマトキシリン・エオジン) 染色標本を光学顕微鏡下で検鏡して臓器の形態学的特徴を理解すること。また、各臓器の機能を形態学的観点から理解することが求められる。

予習、復習のため、顕微鏡写真をスマートフォンで撮影します。私用メールなどを行わないことを条件に携帯端末での撮影方法も学びます。撮影以外に使用すると、写真撮影が中止になることがありますので十分な注意が必要です。

講義科目 : 運動保健学	単位数 : 2
マークシート略 : [運動保健]	学習形態 : 選択科目
担当 : 高木 祐介	栄養士免許必修科目

講義のねらい

ヒトの体内で生じる様々な働きについて考え、実生活の活動（食事、睡眠、休養、移動、仕事等）や運動時の生理学的応答の変化を説明できるようにすることを目標とします。また、疾患を有する者やトップアスリートのように、健康な一般人とは異なる者の生理学的応答についても詳しく考えます。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 食欲とエネルギー消費
- 第3回 運動を行う意義
- 第4回 運動と呼吸循環
- 第5回 運動と神経
- 第6回 運動と腎臓
- 第7回 運動と体温
- 第8回 運動と発汗
- 第9回 運動と免疫
- 第10回 運動処方演習①
- 第11回 幼児の運動
- 第12回 スポーツ栄養学
- 第13回 障がい者スポーツ
- 第14回 運動処方演習②
- 第15回 全体のまとめと筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

指定教科書はありません。講義内容に応じて資料を配付します。パワーポイントを用いて講義を進めます。

成績評価方法

- ① 講義毎の小レポート提出と試験で評価します。配分は、小レポート30%、筆記試験70%です。
- ② 5回以上の欠席は、評価の対象外とします。

その他

前回までの講義内容についてよく復習すること。また、高等学校の生物の授業で学習した人体に関する内容を復習することも、生理学を理解する上で重要な準備学習になります。

講義科目 : 病理学	単位数 : 2
マークシート略 : [病理学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 米田 操	栄養士免許必修科目

講義のねらい

- ① 正常な人のからだを分析・解説する。
- ② 種々の病的状態を分析・解説する。
- ③ 代表的疾患について、「身体内でどのような変化が起こっているか」について解説し、また、病気の原因にも言及する。
- ③ 消化器領域を中心に栄養士に必要な医学の基礎を学ぶ。

授業計画

- | | | |
|-------|----------------|--------------------------|
| 第 1 回 | 病理学とは何か | 病理組織・細胞診断・細胞組織・器官 |
| 第 2 回 | 細胞障害と増殖、修復・再生、 | 細胞死と増殖、再生、化生（生体の防御機構） |
| 第 3 回 | 循環障害、炎症、感染症 | 充血、うっ血、虚血、炎症、感染 |
| 第 4 回 | 腫瘍、免疫 | 腫瘍、血液、外因、内因（代謝） |
| 第 5 回 | 遺伝、代謝異常、老化 | 先天性異常、染色体異常、アミロイド、老化について |

（総論的内容が理解できたかの確認テスト実施）

- | | | |
|-------|------|--------|
| 第 6 回 | 疾病各論 | 循環器の疾患 |
| 第 7 回 | 疾病各論 | 呼吸器の疾患 |
| 第 8 回 | 疾病各論 | 消化器の疾患 |

（循環器、呼吸器、消化器疾患の内容が理解できたかの確認テスト実施）

- | | | |
|--------|------|-----------|
| 第 9 回 | 疾病各論 | 内分泌の疾患 |
| 第 10 回 | 疾病各論 | 造血器の疾患 |
| 第 11 回 | 疾病各論 | 泌尿器の疾患 |
| 第 12 回 | 疾病各論 | 生殖器の疾患 |
| 第 13 回 | 疾病各論 | 運動器・皮膚の疾患 |
| 第 14 回 | 疾病各論 | 脳・神経の疾患 |
| 第 15 回 | 筆記試験 | |

（内分泌、造血器、泌尿器、その他疾患の内容が理解できたかの確認テスト実施）

教材・テキスト・参考文献等

教科書 : 下正宗、前田環、村田哲也、森谷卓也編集、人体の構造と機能・第2版
医学書院

成績評価方法

1回期末試験

その他

すべての項目が重要であるが、特に栄養士に関わる消化器、呼吸器、循環器、泌尿器、生殖器、総論などが重要である。ただ単に暗記するのではなく理解することが求められる。特に消化器は栄養士にとって重要と考えられる。

講義科目 : 生化学	単位数 : 2
マークシート略 : [生化学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山田 徳広	栄養士免許必修科目

講義のねらい

どんな生命現象も、化学元素やその化合物の反応により成り立っています。本講義では生体内での栄養素の変化や働きを化学的に説明し、栄養素の重要性を化学の側面から理解します。

授業計画

- 第1回 生化学に必要な化学の基礎知識
- 第2回 生体膜と細胞, 細胞内小器官の働き
たんぱく質・アミノ酸の構造と性質①
- 第3回 たんぱく質・アミノ酸の構造と性質②
- 第4回 糖質の構造と性質①
- 第5回 糖質の構造と性質②
脂質の構造と性質①
- 第6回 脂質の構造と性質②
- 第7回 エネルギー
- 第8回 核酸と遺伝子①
- 第9回 核酸と遺伝子②
生体の恒常性を保つシステム
- 第10回 生体防御機構
- 第11回 糖質の代謝①
- 第12回 糖質の代謝②
脂質の代謝①
- 第13回 脂質の代謝②
たんぱく質の代謝①
- 第14回 たんぱく質の代謝②
- 第15回 最終試験

教材・テキスト・参考文献等

相原英考 他 著 『イラスト生化学入門』 東京教学社
奥 恒行, 柴田克己 編集 『健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学』
南江堂

成績評価方法

平常点, 小テスト, 最終試験によって評価する。

その他

わからないことがあったら、気軽に質問してください。

講義科目 : 生化学実験	単位数 : 1
マークシート略 : [生化学実]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山田 徳広	栄養士免許必修科目

講義のねらい

短期大学に入学して最初の実験となる。基礎実験の役割も兼ね、基本的実験器具の使い方と数値の扱い方をマスターする事を主目的とする。

授業計画

第1回	演習：化学実験に必要な基本事項と計算演習① 「モルについて，モル濃度，重量%濃度」
第2回	演習：化学実験に必要な基本事項と計算演習② 「酸・塩基について，中和反応について」
第3回	講義：「pHについて」 実験器具の基本的操作方法① 「ガラス器具の使い方」
第4回	実験器具の基本的操作方法② 「電子天秤の使い方，ガスバーナーの付け方」
第5回	講義：吸光度とは何か。
第6回	実験器具の基本的操作方法③ 「マイクロピペットの使い方」 「分光光度計の使い方と濃度による吸光度の変化」
第7回	演習：実験データの取り扱い方① 「平均値，中央値，標準偏差，標準誤差，最小二乗法の説明」
第8回	演習：実験データの取り扱い方② 「平均値，中央値，標準偏差，標準誤差，最小二乗法の演習」
第9回	演習：実験データの取り扱い方③ 「パソコンによる平均値，中央値，標準偏差，標準誤差の演習」
第10回	演習：実験データの取り扱い方④ 「パソコンによる回帰直線の作成」
第11回	演習：実験データの取り扱い方⑤ 「パソコンによる最小二乗法の演習」
第12回	実験：シュウ酸による水酸化ナトリウムの標定① 「シュウ酸による水酸化ナトリウムの標定」
第13回	実験：食品中の酸の定量① 「食酢中の酢酸の定量」
第14回	実験：食品中の酸の定量② 「濃縮レモン中のクエン酸の定量」
第15回	講義：総括

教材・テキスト参考文献等

適宜配布する

成績評価方法

実験に取り組む姿勢とレポートから評価します。

その他

わからないときは、気軽に質問してください。

講義科目 :食品学	単位数 :2
マークシート略 :〔食品学〕	学習形態 :必修科目
担当 :橋本 博行	栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養について学ぶための基礎的な知識として、食品中に含まれる5大栄養成分についての理解を深めることは非常に重要なことである。講義では食品中の、たんぱく質、脂質、炭水化物、ビタミン、そして無機質（ミネラル）の構造や特徴、そして栄養学的な働きについて解説する。さらに、食品中の色素、呈味成分、におい等の嗜好成分や、食品成分の変化、食品成分間の反応、食品の物性、そして官能評価等についても講義する。

授業計画

第1回	食品学の概要
2回	食品の分類、食品成分表
3回	食品成分表、食品成分（水分）
4回	食品成分（タンパク質、アミノ酸、酵素）
5回	食品成分（炭水化物、単糖、オリゴ糖、多糖類、食物繊維）
6回	食品成分（脂質、脂肪酸、生理作用）
7回	食品成分（ビタミン）
8回	食品成分（無機質、食事摂取基準）
9回	嗜好成分および有害成分（色素成分、呈味成分、におい成分）
10回	食品物性（コロイド、レオロジー、テクスチャー）
11回	官能評価
12回	食品成分間反応（酸化、加熱変化、酵素反応、成分間反応）
13回	食品の機能性
14回	バイオテクノロジーと新しい食品
15回	食物アレルギー

教材・テキスト・参考文献等

教科書：栄養科学シリーズNEXT 食べ物と健康 食品と衛生「食品学総論 第3版」辻英明、海老原清、渡邊浩幸、竹内弘幸 編、株式会社 講談社

成績評価方法

- ・毎回出席をとる。
- ・出席点10%、課題レポート20%、授業内試験70%（10、20、30、10%）で評価する。

その他

毎回、講義の要点プリントを配布するので復習に活用すること。

講義科目 : 食品の機能	単位数 : 2
マークシート略 : [食品機能]	学習形態 : 選択科目
担当 : 橋本 博行	栄養士免許必修科目

講義のねらい

食品の機能は、一次機能である栄養性、二次機能である嗜好性、そして三次機能である生体調節機能の3つの機能に分けることができる。すでに、食品学では、一次機能（栄養成分、相互作用）や、二次機能（色素、呈味成分、香り成分、物性等）について学んできた。「食品の機能」の講義では、食品の三次機能を中心に、疾病の予防などの生体調節機能について学ぶ。また、生活習慣病等の一次予防の観点より、食品の三次機能との関連が深い保健機能食品について、その制度も含めて講義する。

授業計画

第1回	食品機能学とは（食品の機能）
2回	食品機能学とは（保健機能食品）
3回	抗酸化機能（活性酸素とは）
4回	抗酸化機能（抗酸化物質と抗酸化機能食品）
5回	消化吸収促進と代謝改善機能（消化吸収）
6回	消化吸収促進と代謝改善機能（ミネラル、ビタミン）
7回	難消化、吸収阻害および微生物活性機能
8回	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品
9回	脂質関連代謝機能（n-3系、n-6系脂肪酸等）
10回	脂質関連代謝機能（コレステロールの吸収と代謝）
11回	酵素阻害・酵素活性化機能（血圧、糖尿病）
12回	酵素阻害・酵素活性化機能（酵素の阻害、活性化）
13回	免疫系におよぼす機能
14回	神経系におよぼす機能
15回	特定保健用食品、栄養機能食品

教材・テキスト・参考文献等

教科書：「改訂 食品機能学 第3版」．青柳康夫 編著，建帛社

成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 出席10%、授業内試験70%（10、20、30、10%）、レポート20%で評価する。

その他

講義科目	: 食品学実験	単位数	: 1
マークシート略	: [食品実験]	学習形態	: 必修科目
担当	: 橋本 博行		栄養士免許必修科目

講義のねらい

食品学実験の目的は、食品学で学習する内容について、実際に食品成分を実験により分析することにより、食品学の内容について理解を深めることである。食品に含まれる5大栄養素である、たんぱく質、脂質、炭水化物、ビタミン、無機質（ミネラル）と食品成分表に必要な水分、灰分の分析について学ぶ。さらに、食品中の機能性成分、色素成分の分析や酵素反応、食品物性、官能評価等についても実験を行い、内容の理解を深める。

授業計画

1. 実験に関する諸注意(実験器具の名称と使用法の説明)
2. 実験の基本操作（ビュレット使用方法、レポートの書き方）
3. 食品成分の分析（柑橘類のビタミンCの定量）
4. 調理とビタミン（調理操作による、野菜のビタミンC量の変化）
5. 食品成分の分析（無機質；食塩の定量）
6. 呈色定量の基本操作（分光光度計の使用法、検量線定量法）
7. 食品成分の分析（たんぱく質の定量）
8. 食品成分の分析（糖の定量）
9. 機能性成分、嗜好成分の分析(お茶中のカテキン類の分析)
10. 色素の分析（ナスニン抽出とpHによる色調の変化）
11. 食品の物性測定（トロミ剤、ゲル化剤の物性測定）
12. 官能評価法（紅茶；3点比較法、ミネラルウォーター；順位法）
13. 食品成分の分析（水分、灰分の測定）
14. 成分間反応（酵素反応の測定）
15. 食物アレルギーの分析

教材・テキスト・参考文献等

毎回、その回の実験に必要なマニュアルを配布する。

成績評価方法

- ・ 毎回、出席をとる。
- ・ 出席点 20%、小テスト 40%（10、20、10%）、レポート評価 20%、実験参加度 20%で評価する。

その他

講義科目 : 食品加工学	単位数 : 2
マークシート略 : [食品加工]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大井 淳史	栄養士免許必修科目

講義のねらい

近年のライフスタイルの変化によって、私たちの食生活に占める加工食品の割合はますます高まっている。こうした食品産業への依存度の増加にともなって、栄養指導に従事する場合にも食品加工に関する知識が不可欠なものとなってきている。本講義では各種加工食品について、その加工目的、加工および保蔵方法を学び、製造工程における成分や物性の変化について理解することを目的とする。また併せて特別用途食品などの加工食品の規格・表示と安全性に関する知識も習得する。

授業計画

第1回	食品加工の意義，食品の劣化要因
2回	各種の保存技術1（冷凍，冷蔵，水分活性制御，環境制御）
3回	各種の保存技術2（食品添加物），各種加工法の原理
4回	農産物加工 穀類・いも類
5回	豆類・果実類・野菜きのこ類
6回	畜産物加工 畜肉類・卵類
7回	乳類
8回	水産物加工 魚介類・海藻類
9回	油脂加工 植物・動物油・加工油脂
10回	糖類・多糖類
11回	調味料 風味調味料・食塩・香辛料
12回	嗜好食品 飲料類・菓子類
13回	新規加工食品 特別用途食品・保健機能食品
14回	食品包装
15回	食品レオロジー

教材・テキスト・参考文献等

毎回，資料を配布する。

参考書：「新しい食品加工学」南江堂（小川正・的場輝佳 編）など

成績評価方法

数回の理解度確認テスト60点，レポートおよびノートの提出30点，出席点10点（1回休むごとに2点減点し，5回の欠席を限度とする）

その他

講義科目 : 食品衛生学 I	単位数 : 2
マークシート略 : [食品衛 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 橋本 博行	栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養士は、食品衛生責任者として、給食施設において、食品の衛生管理を担当する。したがって、栄養士の業務において、食品の栄養学的な管理とともに給食提供時の食中毒の発生を未然に防止するため、食品衛生に関する知識と技術が必要となる。

食品衛生学 I では、細菌やウイルスによる食中毒についての知識を深めるとともに、自然毒による食中毒についての知識を得ることを目的とする。

授業計画

第 1 回	食品衛生学とその目的、食品衛生関係法規と食品保健行政
2 回	微生物と食品衛生とのかかわり
3 回	食品成分の化学的変質
4 回	食中毒（食中毒とは、食中毒の分類、食中毒の発生状況）
5 回	細菌性食中毒（サルモネラ、カンピロバクター）
6 回	細菌性食中毒（下痢原性大腸菌、その他感染型食中毒菌）
7 回	細菌性食中毒（ボツリヌス菌、黄色ブドウ球菌）
8 回	細菌性食中毒（ウエルシュ菌、セレウス菌）
9 回	細菌性食中毒（腸炎ビブリオ、腸管出血性大腸菌）
10回	その他の病原菌食中毒（3類感染症起因菌、人獣共通感染症）
11回	アレルギー様食中毒、細菌性食中毒の予防法
12回	ウイルス性食中毒（ノロウイルス、A 型・E 型肝炎ウイルス）
13回	寄生虫による食中毒（原虫、蠕虫類）
14回	自然毒食中毒（動物性、植物性）
15回	食中毒のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書：栄養科学シリーズNEXT 食べ物と健康、食品と衛生「食品衛生学 第4版」 植木幸英、野村秀一編、株式会社 講談社

成績評価方法

- ・ 毎回、出席をとる。
- ・ 出席点10%、レポート20%、授業内試験70%（10、20、30、10%）で評価する。

その他

上記の教科書「食品衛生学 第4版」は、後期の食品衛生学 II でも使用します。

講義科目 : 食品衛生学Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [食品衛Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 橋本 博行	栄養士免許必修科目

講義のねらい

食品衛生学Ⅰで学習した、食中毒菌や自然毒等を原因とする食中毒についての知識を基礎として、食品衛生学Ⅱでは、HACCPにもとづく大量調理施設での食中毒防止等の衛生管理手法について学習する。さらに、食品添加物の使用目的や食物アレルギーに関する知識を得ることを目的とする。

授業計画

第1回	化学物質による食中毒
2回	HACCPによる衛生管理
3回	特定給食施設（大量調理施設衛生管理マニュアル1）
4回	大量調理施設衛生管理マニュアル2
5回	有害物質による食品汚染（マイコトキシン、農薬）
6回	有害物質による食品汚染（合剤抗生物質、有害金属等）
7回	異物混入対策
8回	食品添加物（安全性試験、規格と表示）
9回	食品添加物（用途名併記添加物）
10回	食品添加物（その他の添加物）
11回	食品の器具と容器包装（器具・容器包装、洗浄と殺菌）
12回	食品の安全性（輸入食品、遺伝子組み換え、放射線照射食品）
13回	食物アレルギー対応1
14回	食物アレルギー対応2
15回	食中毒防止のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書：食品衛生学Ⅰで使用した「食品衛生学 第4版」を使用します。

成績評価方法

- ・ 毎回、出席をとる。
- ・ 出席点10%、レポート20%、授業内試験70%（10、20、30、10%）で評価する。

その他

講義科目 : 食品衛生学実験	単位数 : 1
マークシート略 : [食品衛実]	学習形態 : 選択科目
担当 : 橋本 博行	栄養士免許必修科目

講義のねらい

食品衛生学実験は、食品衛生学 I で学んだ食中毒菌等の知識について、実際に微生物検査等を行うことにより、栄養士が主として勤務する大量調理施設における衛生管理手法を修得することを目的とする。

具体的には、給食施設での検収から給食提供まで、食中毒の発生を未然に防止するための、さまざまな手法を実験により経験することにより、実践的な食中毒防止対策が行えるようになることを目標とする。また、食品添加物の分析、油脂の劣化測定、そして残留アレルゲン等の検査手法についても実験を通じて理解を深めるようにする。

授業計画

1. 微生物実験の基本操作
2. 手洗いの洗浄前後の手指の付着菌検査
3. 黄色ブドウ球菌の検査
4. 一般生菌数検査
5. 大腸菌と大腸菌群の測定
6. サルモネラ、腸炎ビブリオ、腸管出血性大腸菌0157の検査
7. カビ、酵母の培養
8. 大量調理における加熱条件の確認 カビ、酵母の観察
9. 着色料の定性分析
10. 保存料（ソルビン酸）の定量分析
11. 発色剤（亜硝酸塩）の定量分析
12. 油脂の酸価、過酸化価の測定
13. 異物対策（毛髪）
14. 食器の残留試験
15. ノロウイルス対策

教材・テキスト・参考文献等

毎回、その回の実験に必要なマニュアルを配布する

成績評価方法

- ・ 毎回、出席をとる。
- ・ 出席点 20%、小テスト 40%（10、20、10%）、レポート評価 20%、実験参加度 20%で評価する。

その他

講義科目 : 栄養学	単位数 : 2
マークシート略 : [栄養学]	学習形態 : 必修科目
担当 : 山田 徳広	栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養とは何かということを理解し、各栄養素の栄養的意義と消化吸收形態について理解する。前期の生化学を受講していないと理解出来ない内容です。

授業計画

- 第1回 たんぱく質とアミノ酸の種類と構造
- 第2回 たんぱく質とアミノ酸の体内代謝，たんぱく質の栄養評価法
- 第3回 糖質の種類と構造
- 第4回 糖質の体内代謝，血糖とその調節
- 第5回 脂質の種類と構造
- 第6回 脂質の体内代謝，コレステロールの体内代謝
- 第7回 ビタミンの構造と機能，ビタミンの体内代謝と欠乏症・過剰症
- 第8回 ミネラルの分類と機能，ミネラルの体内代謝と欠乏症・過剰症
- 第9回 栄養の概念〔食事の意義，栄養と健康・疾病〕
- 第10回 摂食行動
- 第11回 消化・吸収と栄養素の体内動態
- 第12回 水・電解質の代謝
- 第13回 エネルギー代謝の概念，エネルギー消費量
- 第14回 遺伝子発現と栄養
- 第15回 最終試験

教材・テキスト・参考文献等

相原英考 他 著 『イラスト生化学入門』 東京教学社
 奥 恒行，柴田克己 編集 『健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学』
 南江堂

成績評価方法

平常点，小テスト，最終試験によって評価する。

その他

わからないことがあったら、気軽に質問してください。

講義科目 : ライフステージ栄養学	単位数 : 2
マークシート略 : [ライフス]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山田 徳広	栄養士免許必修科目

講義のねらい

成長・加齢に伴う生体の変化と栄養の特性を理解し、各年代の栄養管理の特性を理解する。

授業計画

- 第1回 栄養ケア・マネジメント①
- 第2回 栄養ケア・マネジメント②
- 第3回 母性栄養①
- 第4回 母性栄養②
- 第5回 母性栄養③
- 第6回 新生児期・乳児期の栄養①
- 第7回 新生児期・乳児期の栄養②
- 第8回 成長期の栄養①
- 第9回 成長期の栄養②
- 第10回 成人期の栄養①
- 第11回 成人期の栄養②
- 第12回 高齢期の栄養①
- 第13回 高齢期の栄養②
- 第14回 日本人の食事摂取基準
- 第15回 最終試験

教材・テキスト・参考文献等

江澤郁子，津田博子 編著 『四訂 応用栄養学〔第二版〕』 建帛社

成績評価方法

平常点，小テスト，最終試験によって評価する。

その他

わからないことがあったら、気軽に質問してください。

講義科目 : 栄養学実験	単位数 : 1
マークシート略 : [栄養学実]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山田 徳広	栄養士免許必修科目

講義のねらい

- ① 実験結果の論理的考察方法を理解する。
- ② 体内環境（pHと温度）の変化が酵素反応に及ぼす影響を理解する。
- ③ 栄養管理で用いる栄養評価方法を理解する。
- ④ たんぱく質摂取量の違いが尿中成分を変化させる事を理解する。
- ⑤ たんぱく質の化学的栄養評価法をマスターする。

授業計画

第1回	実験：糖の定性反応
第2回	実験：たんぱく質・アミノ酸の定性反応
第3回	実験：たんぱく質の等電点沈殿 講義：実験精度の評価方法
第4回	実験：実験精度を上げるための練習
第5回	実験：温度が酵素反応に及ぼす影響
第6回	実験：pHが酵素反応に及ぼす影響
第7回	演習：栄養評価①（身体評価）
第8回	演習：栄養評価②（食事評価、活動評価）
第9回	演習：エネルギー出納の計算①
第10回	演習：エネルギー出納の計算②
第11回	実験：食事と尿に関する実験Ⅰ（尿中尿素の分析）
第12回	実験：食事と尿に関する実験Ⅱ（尿中クレアチニンの分析）
第13回	演習：食事と尿に関する実験Ⅲ（データの解析と評価①）
第14回	演習：食事と尿に関する実験Ⅳ（データの解析と評価②）
第15回	演習：たんぱく質の化学的栄養評価（アミノ酸スコアの計算）

教材・テキスト参考文献等

適宜配布する

成績評価方法

実験に取り組む姿勢とレポートから評価します。

その他

わからないときは、気軽に質問してください。

講義科目	: 臨床栄養学	単位数	: 2
マーケット略	: [臨床栄養]	学習形態	: 選択科目
担当	: 石橋 智奈美		栄養士免許必修科目

講義のねらい

臨床分野における栄養マネジメント業務を遂行していく上で、疾病の成り立ちを理解することは不可欠である。近年の医療制度の変化は著しく、臨床分野の栄養業務は大きく変化している。傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理を理解し、医療・介護制度や医療チームにおける栄養管理の役割を理解することが目的である。また、疾病の症状を改善させるために、病態の正確な理解と栄養状態の的確な評価を学習する。臨床栄養学実習の基礎となる知識を習得する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、臨床栄養学の概念
- 第2回 栄養食事療法・栄養補給法
- 第3回 消化器疾患の病態生理と栄養食事療法
- 第4回 糖尿病の病態生理 糖尿病の病因、合併症
- 第5回 糖尿病の治療の意義と栄養食事療法
- 第6回 脂質代謝異常症、肥満症の病態生理
- 第7回 脂質代謝異常症、肥満症の栄養食事療法
- 第8回 肝臓、胆嚢、膵臓疾患の病態生理と栄養食事療法 小テスト
- 第9回 循環器疾患(高血圧・動脈硬化など)の病態生理と栄養食事療法
- 第10回 腎臓疾患(慢性腎臓病・腎不全・ネフローゼ症候群・透析)の病態生理
- 第11回 腎臓疾患の栄養食事療法
- 第12回 筋・骨格系疾患の病態生理と食事療法
- 第13回 免疫・アレルギー疾患の概要と栄養食事療法
- 第14回 摂食機能低下の概要と栄養食事療法
- 第15回 全体のまとめと筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

・臨床栄養学概論 友竹浩之・塚原丘美編 講談社

参考書

- ・臨床栄養学 佐藤和人・本間健・小松龍史編 医歯薬出版(株)
- ・栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 疾患別編 本田佳子編 羊土社
- ・糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 日本糖尿病学会編 文光堂
- ・腎臓病食品交換表第9版 黒川清監修 中尾俊之他編 医歯薬出版(株)

成績評価方法

出席(15%)、小テスト(30%)、筆記試験(55%)により評価する

その他

病気の成り立ちと栄養食事療法などについて解説するが、講義時間内では、すべては網羅できないため、予習・復習が必須である。

講義科目 : 臨床栄養学実習	単位数 : 1
マークシート略 : [臨床栄養]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石橋 智奈美	栄養士免許必修科目

講義のねらい

臨床栄養学で学習した理論をもとに、適切な栄養アセスメント及び栄養スクリーニングを行い、病態や栄養状態の特徴に基づいて個人に対応する適切な栄養ケアの計画と実施、食事療法および栄養補給がおこなえる実践的な能力を培う。エビデンスに基づいた治療を展開する責務を担う栄養サポートの一員としての知識とスキルを高め、総合的なマネジメントができるように実習を行う。

授業計画

第1回	オリエンテーション	栄養ケアの概要、非常食
第2回	栄養ケアの基礎	流動食・軟食・アイト食
第3回	胃腸疾患の栄養ケア	経腸栄養剤の使い方
第4回	エネルギーコントロール食	低エネルギー食
第5回	糖尿病食品交換表の理解と使用法	糖尿病献立作成
第6回	カーボカウント糖尿病指導	糖尿病献立作成・提出
第7回	減塩方法と献立作成	糖尿病献立修正
第8回	糖尿病献立実習	減塩食の修正
第9回	減塩食の調理実習	減塩製品の使用
第10回	腎臓病食品交換表の説明	たんぱく質制限・塩分制限
第11回	腎臓病の献立作成	たんぱく質調整食品
第12回	Caの多い食事または食物アレルギーの献立作成、腎臓病の献立修正	
第13回	腎臓病の調理実習、Caの多い食事または食物アレルギーの献立修正	
第14回	Caの多い食事または食物アレルギーの調理実習	
第15回	全体のまとめと筆記試験	

教材・テキスト・参考文献等

- ・ トレーニーガイド栄養食事療法の実習 本田佳子編 医歯薬出版(株)
 - ・ 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 日本糖尿病学会編 文光堂
 - ・ 腎臓病食品交換表第9版 黒川清監修 中尾俊之他編 医歯薬出版(株)
- 参考書
- ・ 栄養食事療法必携 中村丁次編著 医歯薬出版(株)
 - ・ 糖尿病食事療法のための食品交換表活用編 日本糖尿病学会編 文光堂

成績評価方法

受講態度(10%)、課題に対するレポート(40%)、筆記試験(50%)から評価する

その他

- レポートの提出日は翌週の授業前とする。
- より理解を深めるため、DVD鑑賞を実施することもある。

講義科目	: 臨床医学概論 I	単位数	: 2
マークシート略	: [臨医論 I]	学習形態	: 選択科目
担当	: 馬 寧		栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養士として、健常者の健康保持や、傷病者の療養のための栄養指導を行うには、人体の構造と機能とともに、病気についての知識が必要です。本講義では、病気を理解する上で必要な解剖学、生理学、生化学と、病気の起こる機序、さまざまな疾患の症状、身体所見、臨床検査所見、治療法全般について解説したあと、代謝疾患や感染症などの全身疾患について説明します。

授業計画

1. 細胞の構造と機能
2. 細胞の変性、壊死とアポトーシス;炎症、創傷治癒
3. 腫瘍:肥大と過形成、組織化生と異形成、良性腫瘍と悪性腫瘍、癌腫と肉腫、癌遺伝子
4. 疾患診断の概要1:主訴と現病歴、身体各部位の名称、身体所見
5. 疾患診断の概要2:症候(症状と徴候)
6. 疾患診断の概要3:症候発現の機序
7. 疾患診断の概要4:臨床検査(血液学検査、生化学検査)
8. 疾患診断の概要5:画像診断
9. 疾患治療の概要1:疾患の経過、原因療法と対症療法、根治療法と保存療法、治療の適応と選択、EBMとインフォームドコンセント、QOL
10. 疾患治療の概要2:治療の方法(食事栄養療法、薬物療法、輸血輸液療法、手術、臓器移植、放射線照射)
11. 代謝疾患と栄養障害1 糖尿病1型と2型、高脂血症、肥満
12. 代謝疾患と栄養障害2 痛風、先天性代謝疾患
13. 感染症と生体防御1 感染症の病原体・感染経路・病態
14. 感染症と生体防御2 感染症の診断治療、免疫と免疫疾患
15. まとめ、筆記試験の実施。

教材・テキスト・参考文献等

教科書は、田中明ほか編「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち」第二版(羊土社)。

成績評価方法

テストの成績(80%)を中心に、出席状況(20%)により総合的に評価する。

その他

毎回の講義の開始前に学習について気軽に質問してください。

講義科目	: 臨床医学概論Ⅱ	単位数	: 2
マークシート略	: [臨医論Ⅱ]	学習形態	: 選択科目
担当	: 馬 寧		栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養士として、健常者の健康保持や、傷病者の療養のための栄養指導を行うには、人体の構造と機能とともに、病気についての知識が求められる。1年次に学んだ臨床医学概論1では、病気の起こる機序、さまざまな疾患の症状、身体所見、臨床検査所見、治療法全般について説明した。本講義の臨床医学概論2では、一般的に良く見られる疾患それぞれについて、病気の起こる機序、症状、身体所見、臨床検査所見、治療法について解説する。

授業計画

1. 消化器系疾患1:消化器の構造とはたらき、胃食道逆流症
2. 消化器系疾患2:胃・十二指腸潰瘍、肝炎、肝硬変、胆嚢炎、消化器系の腫瘍
3. 循環器系疾患1:循環器の構造と機能 心臓の構造、刺激伝導系と心電図
4. 循環器系疾患2:不整脈、狭心症、心筋梗塞、心不全、高血圧
5. 呼吸器系疾患:呼吸器系の構造と機能;肺炎、慢性閉塞性肺疾患
6. 泌尿器系疾患:泌尿器系の構造と機能、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群
7. 血液疾患1:血球と血漿、血液型と輸血、貧血、血液凝固異常
8. 血液疾患2:リンパ系とその異常、白血病、リンパ腫
9. 神経系疾患1:中枢神経の構造と機能、脳室と脳脊髄液の循環、脳の血液循環
10. 神経系疾患2:脳卒中、脳出血と脳梗塞、認知症、神経変性疾患(パーキンソン病ほか)、プリオン病
11. 内分泌疾患:ホルモンの作用機序、下垂体の疾患、甲状腺の疾患、副腎の疾患
12. 筋骨格系疾患:筋骨格系の構造、筋骨格系疾患の症状、骨粗鬆症、変形性関節症、痛風、関節リウマチ
13. 生殖器疾患1:男女生殖器官の構造と機能;男性の生殖器疾患
14. 生殖器疾患2:女性の生殖器疾患
15. まとめ、筆記試験の実施。

教材・テキスト・参考文献等

教科書は、田中明ほか編「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち」第二版(羊土社)。

成績評価方法

筆記試験の成績を中心に(80%)、出席状況(20%)により総合的に評価する。

その他

毎回の講義の前に学習について気軽に質問してください。

講義科目 : 栄養教育論 I	単位数 : 2
マークシート略 : [栄養教 I]	学習形態 : 必修科目
担当 : 阿部 稚里	栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために具体的に働きかけることである。

そこで、本講義では、食生活の問題点や環境を正しく理解し、食生活の改善を実践できることを目標に、健康やQOLの向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法を学ぶ。

授業計画

	授業内容
第1回	オリエンテーション、栄養士の役割
第2回	栄養指導・栄養教育の歴史、栄養教育の対象と機会
第3回	栄養教育の目的・目標、最近の栄養教育に関する法的根拠
第4回	健康づくり対策と栄養教育方法
第5回	行動科学理論の概要
第6回	行動科学理論とモデル1
第7回	行動科学理論とモデル2
第8回	栄養カウンセリング
第9回	カウンセリングの栄養教育への応用
第10回	栄養教育マネジメントの概要
第11回	栄養アセスメントの種類とその特徴
第12回	栄養教育の目標設定、学習形態の種類とその特徴
第13回	栄養教育計画作成の基本的な手順
第14回	栄養教育計画の立案、評価方法
第15回	筆記試験およびまとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書：中山玲子・宮崎由子編「栄養教育論」化学同人

参考図書：随時授業中に紹介

成績評価方法

出席点15%、筆記試験85%程度。提出物や授業態度も考慮する。特に、出席カードに指定された内容の記載がない場合は、出席は認めるが出席点は加点しない。

その他

授業に関する質問、要望等いつでも受け付けますので、理解できないままにはしないで下さい。

講義科目 : 栄養教育論Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [栄養教Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 阿部 稚里	栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養教育Ⅰを発展させ、各ライフステージ別の栄養教育を学ぶ。対象者に対応した栄養教育プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントできる能力を身に付けることを目標に、行動科学やカウンセリングなどの理論を応用して身体的、精神的、社会的状況、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方と方法について学ぶ。

授業計画

	授業内容
第1回	オリエンテーション、妊娠期に対応した栄養教育1
第2回	妊娠期に対応した栄養教育2
第3回	授乳期に対応した栄養教育
第4回	乳児に対応した栄養教育
第5回	幼児に対応した栄養教育
第6回	学童期（低学年）に対応した栄養教育
第7回	学童期（高学年）に対応した栄養教育
第8回	思春期に対応した栄養教育
第9回	成人期に対応した栄養教育1
第10回	成人期に対応した栄養教育2
第11回	成人期に対応した栄養教育3
第12回	高齢期（健常者）に対応した栄養教育
第13回	高齢期（要介護者）に対応した栄養教育
第14回	栄養教育の最近の動向
第15回	筆記試験およびまとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書：中山玲子・宮崎由子編「栄養教育論」化学同人

参考図書：随時授業中に紹介

成績評価方法

出席点15%、筆記試験85%程度。提出物や授業態度も考慮する。特に、出席カードに指定された内容の記載がない場合は、出席は認めるが出席点は加点しない。

その他

授業に関する質問、要望等いつでも受け付けますので、理解できないままにはしないで下さい。

講義科目 : 栄養教育論実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [栄教実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 阿部 稚里	栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために具体的に働きかけることである。

本実習では、1年次に習った栄養教育論の内容の中で、特に個人に対応した栄養教育について主体的に実践することを目的とする。特に、指導ではなく支援する栄養教育の方法について、1年次に習った行動科学理論を復習しながら進めて行く。

授業計画

回数	授業内容
第1回	オリエンテーション・栄養カウンセリングの概念
第2回	行動療法・ロールプレイング・事柄の明確化
第3回	ストレスマネジメント・事柄から感情への明確化
第4回	栄養カウンセリング・栄養コーチング
第5回	栄養相談の練習
第6回	栄養相談の実施
第7回	栄養アセスメントの実施
第8回	個人に対する栄養教育案の作成
第9回	個人に対する栄養媒体の作成・発表準備 1
第10回	個人に対する栄養媒体の作成・発表準備 2
第11回	個人に対する栄養媒体の作成・発表準備 3
第12回	個人に対する栄養媒体の作成・発表準備 4
第13回	個人に対する栄養教育の実施・発表・栄養媒体の評価 1
第14回	個人に対する栄養教育の実施・発表・栄養媒体の評価 2
第15回	個人に対する栄養教育の実施・発表・栄養媒体の評価の総合討論

教材・テキスト・参考文献等

特に指定しない。参考図書は随時授業中に紹介する。

成績評価方法

出席15%、発表35%、レポート50%程度。提出物や授業態度も考慮する。

その他

実習は主体的な参加が求められるため、正当な理由のない欠席はしないで下さい。1年次に栄養教育論 I または II を履修していない、または履修はしたが単位を取得できなかった学生は、個別に相談に来てください。

講義科目 : 栄養教育論実習Ⅱ	単位数 : 1
マークシート略 : [栄教実Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 阿部 稚里	栄養士免許必修科目

講義のねらい

集団に対する栄養教育を自ら企画・実施することにより、個人と集団に対する栄養教育の違いを知り、1年前期から習ってきた栄養教育論の集大成とする。

企画をプレゼンテーションして実施し評価を受けることで、集団に対する栄養教育を行う基本的な知識・技術を身につける。

あらゆるライフステージ別の栄養教育に参加することによって、各ライフステージにおける栄養教育の重要な項目を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容
第1回	オリエンテーション・集団に対する栄養教育の特徴
第2回	ライフステージ別食に関する知識のまとめ1
第3回	ライフステージ別食に関する知識のまとめ2
第4回	ライフステージ別食に関する知識の質疑応答
第5回	集団に対する栄養教育指導案作成・スライド案作成
第6回	集団に対する栄養教育のプレゼンテーション案準備1
第7回	集団に対する栄養教育のプレゼンテーション案準備2
第8回	集団に対する栄養教育のプレゼンテーション発表・評価
第9回	集団に対する栄養教育の発表準備1
第10回	集団に対する栄養教育の発表準備2
第11回	集団に対する栄養教育のリハーサル
第12回	集団に対する栄養教育の発表・評価1
第13回	集団に対する栄養教育の発表・評価2
第14回	集団に対する栄養教育の発表・評価3
第15回	集団に対する栄養教育の発表・評価の総合討論

プレゼンテーションは1人10分程度、栄養教育は1人30分程度の時間内で、各ライフステージ別の発表を行う。その後、質疑応答や評価などを行う。

教材・テキスト・参考文献等

特に指定しない。参考図書は随時授業中に紹介する。

成績評価方法

出席15%、レポート35%、発表評価50%程度。提出物や授業態度も考慮する。

その他

実習は主体的な参加が求められるため、正当な理由のない欠席はしないで下さい。1年次に栄養教育論ⅠまたはⅡ、2年前期の栄養教育論実習Ⅰを履修していない、履修したが単位を取得できなかった学生は個別に相談に来てください。

講義科目 : 公衆栄養学	単位数 : 2
マークシート略 : [公衆栄養]	学習形態 : 選択科目
担当 : 生川 美江	栄養士免許必修科目

講義のねらい

公衆栄養学の目的である「現代における集団の健康問題が栄養学上のどのような因子に基づくのか、その問題解決のために食生活はどうあるべきかを明らかにし、健康増進・疾病予防の方策を考究」のため、食料・栄養の視点、人間集団を対象とする栄養学の視点、保健・福祉の視点から理解を深める。適宜演習を取り入れ、食料需給表、国民健康・栄養調査等既存資料から国民栄養の現状・変遷を読み解く経験や班討議を通じて調査結果の有効的な活用方法を学び、現状の理解と改善への意欲を喚起すると同時に国の健康政策を理解し、栄養士として健康づくりにいかに関わるかを考える。

授業計画

- 第1回 公衆栄養学の概念1
- 第2回 公衆栄養学の概念2
- 第3回 ライフステージ別保健福祉および栄養士業務の実際、諸外国の健康・栄養政策
- 第4回 公衆栄養マネジメント1
- 第5回 公衆栄養マネジメント2
- 第6回 公衆栄養マネジメント3
- 第7回 栄養疫学1
- 第8回 栄養疫学2
- 第9回 わが国の健康・栄養問題の現状と課題1
- 第10回 わが国の健康・栄養問題の現状と課題2
- 第11回 わが国の健康・栄養問題の現状と課題3
- 第12回 わが国の健康・栄養問題の現状と課題4
- 第13回 国民健康・栄養調査の検討1
- 第14期 国民健康・栄養調査の検討2
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：友竹浩之・郡俊之編「公衆栄養学概論」
講談社

* 第1回講義に必ず持参すること

なお、栄養・食糧に関する政府発表データ等は最新のものを資料として配布する。

成績評価方法

出席点10点（欠席1回につき2点減点、10分以上の遅刻・早退は1点減点、遅刻2回につき欠席1回として扱う。なお、6回以上欠席した学生には単位認定を行わない）

レポート40点、15回の中で実施する筆記試験50点の100点満点で60点以上を合格とする。

講義科目 : 給食計画実務論	単位数 : 2
マークシート略 : [給食計画]	学習形態 : 選択科目
担当 : 駒田 亜衣	栄養士免許必修科目

■講義のねらい

栄養士の活動は伝統的に集団給食であり、その中で食事を通して喫食者の健康増進に寄与してきた。現代の社会構造の変化、個人生活の多様化にともなう社会情勢は、集団給食の役割とその必要性を増加させた。集団給食においては、ますます科学的、合理的な管理が要求されることとなった。そのために栄養士は給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントをおこなう能力に磨きをかけなければならない。

本講義では、集団給食における給食運営管理業務を適切に達成するための基本的知識を習得することを目的とする。

■授業計画

第1回	給食管理の概念(1)	集団給食の概要、給食システムについて
第2回	給食管理の概念(2)	集団給食の指導と関係法規
第3回	栄養管理(1)	栄養・食事・献立計画
第4回	栄養管理(2)	評価と栄養教育
第5回	食材管理(1)	食材の流通と購買計画
第6回	食材管理(2)	食材の管理方法と評価
第7回	施設・設備管理(1)	レイアウト、作業動線、食事環境の整備
第8回	施設・設備管理(2)	稼動マニュアルと分析、保全活動
第9回	安全・衛生管理(1)	衛生教育、食中毒、HACCP
第10回	安全・衛生管理(2)	施設・設備保守管理、安全・衛生管理の評価 危機管理対策
第11回	生産管理	作業工程管理、大量調理の方法、生産管理の評価
第12回	品質管理	品質保証、評価と品質改善
第13回	各給食施設の特徴	病院、福祉施設、学校、事業所、その他の施設
第14回	経営管理	給食業務における経営管理
第15回	試験とまとめ	試験実施、まとめと解説

■教材・テキスト・参考文献等

・富岡和夫編「給食経営管理実務ガイドブック」同文書院

■成績評価方法

・課題レポート、試験、出席状況で評価する。

講義科目 : 給食計画実務論実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [給計実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 駒田 亜衣	栄養士免許必修科目

■講義のねらい

本実習は、栄養士の校外実習に先立って行われる給食実務に関する校内での大量調理実習である。これまでに学んだ「栄養学」、「調理学」、「食品衛生学」、[栄養教育]などの基礎知識をもとに、実務的な内容を含む「給食計画実務論」の知識を生かして、大量調理を目的とする給食運営の手順、方法などの運営管理業務全般について、実習を通して習得することを目的とする。

この実習では、学生自らが計画を立て、各自が分担された作業を確実に果たしていかなければならないため、協力と責任の重要性を身につけることも目的とし、グループに分かれて実習をおこなう。

■授業計画

第1回	給食運営実習の概要	オリエンテーション
第2回	大量調理基礎実習試作	HACCPに基づく衛生管理に従った 大量調理技術実践のための基礎の習得
第3回	大量調理基礎実習1	
第4回	大量調理基礎実習2	
第5回	大量調理基礎実習3	大量調理に向けての実習 計画した一連の給食管理作業の実習
第6回	大量調理実習Aの試作	
第7回	大量調理実習A1	
第8回	大量調理実習A2	テーマ別の献立作成および実習 給食に関する帳票類の作成 喫食調査など
第9回	大量調理実習A3	
第10回	大量調理実習Bの試作	
第11回	大量調理実習B1	班ごとに実習の評価・反省をまとめて発表
第12回	大量調理実習B2	
第13回	大量調理実習B3	
第14回	帳票のまとめ	
第15回	実習の評価報告会	

■教材・テキスト・参考文献等

- ・松月弘恵ら著「給食マネジメント実習」医歯薬出版
- ・配付プリント

■成績評価方法

- ・実習への取り組み、レポート・実習ノートの内容を総合して評価する。

■その他

- ・本実習は校外実習に準じる校内実習であるため、校外実習の受講年度に受講しなければならない。また遅刻や欠席の場合は校外実習と同様に単位は認められず、やむを得ない場合は補講を受けなければならない。

講義科目 : 給食計画実務論実習Ⅱ	単位数 : 1
マークシート略 : [給計実Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 阿部 稚里・駒田 亜衣	栄養士免許必修科目

講義のねらい

校外実習の目的は、給食業務を行なうために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を習得することを目的とする。そのために栄養士や管理栄養士が配置されている学外の特設給食施設において、実際の給食管理や栄養管理業務を学ぶものである。さらに社会的責任を自覚する栄養士として成長するために行うものでもある。つまり各特設給食施設において担当栄養士の指導のもとに、給食運営の実習体験を通じて資質の向上を図るとともに勤労の精神や強い責任感を養うことをめざす。

実習施設として病院・福祉施設・学校・事業所・自衛隊の中からどれか一施設において実習をおこなう。

病院給食は、食事療養を含む病院栄養士の業務内容の全般を把握し、運営方法、病院における栄養指導の方法を習得することを目的とする。

学校給食は、児童・生徒の心身の健全な発達を図るための給食技術を身につけ、さらに家庭における食生活改善指導のあり方などを習得することを目的とする。

社会福祉施設の給食は、施設利用者の健康状態を十分把握し、日常生活の心身の安定・回復、健康の維持・増進を図るため、食事を通して社会的援護を行うのに必要な栄養管理や給食管理全般についての実務の習得を目的とする。

事業所・自衛隊給食は、その特徴的な運営方法および栄養的、衛生的、能率的な管理の実際を体得することを目的とする。

授業計画(予定)

6、7月	・実習先訪問 ・校外実習の準備	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 実習についてのオリエンテーション ◇ 実習施設へ訪問し、担当栄養士から準備や研究課題について指導を受ける ◇ 実習施設での研究課題について、学内で準備を行う
8、9、10月	・校外実習	◇ 実習は病院、社会福祉施設、事業所、自衛隊、学校などから一施設

教材・テキスト・参考文献等

本学の「校外実習ノート」を配布する。

成績評価方法

施設からの成績によって評価する。

その他

校外実習においては、その教育効果があがるように、学内において事前事後評価を行なう体制を整えることが規定されている。そのため本実習を受講する者は、1年生時に開講された栄養士必修科目のすべての単位を取得するとともに、ある一定の評価基準に達しなければならない。さらに校外実習は、実習生としての謙虚な態度や意欲的に取り組む姿勢の他、社会人としての自覚が必要とされるので、そのことを自覚して受講しなければならない。

講義科目 : 校外実習事前事後指導	単位数 : 1
マークシート略 : [前後指導]	学習形態 : 選択科目
担当 : 阿部 稚里・駒田 亜衣	栄養士免許必修科目

講義のねらい

栄養士の資格取得に必要な「給食計画実務論実習Ⅱ」（校外実習）を受講する学生に対して、その実習を有意義なものとするために、校外実習にでる前の事前指導や校外実習終了後の事後教育を行う。

特定給食施設の職域ごとの栄養士の講演を予定している他、さらに受講生は実習施設や実習グループごとに課題検討、手続き等の準備を行う。実習後は実習評価・反省会をもち、その内容を次年度に実習を予定している1年生に報告する。

授業計画(予定)

4、5、 6、7、 8、9、 10月	校外実習事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中の課題の検討 ・その他実習に係わる手続きなどの準備 ・職域ごとの栄養士の講演会
11、12 月	校外実習報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設ごとに実習内容の発表および反省会

教材・テキスト・参考文献など

- ・本学の校外実習ノート
- ・これまで栄養士必修科目で使用した教科書など

成績評価方法

- ・レポート、実習の準備に取り組む意欲、実習後のまとめについて評価する。

その他

・校外実習を受講するものは必ず受講しなければならない。校外実習を有意義なものとするために、実習施設ごとに準備のための計画を立てて実践する積極的な取り組みが必要である。その心構えを持って受講しなければならない。

講義科目 : 食品の流通	単位数 : 2
マーケット略 : [食品流通]	学習形態 : 選択科目
担当 : 徳田博美	栄養士免許必修科目

講義のねらい

現在の食では、生産と消費の空間的・時間的乖離が進んでおり、その間をつなぐ食品流通の持つ意味は大きい。本講義は、今の食品流通の実態、特徴、法制度および問題点・課題などをフードシステム論の視点から解説する。それを通じて、学生に食品流通上に起きた現象を経済学的及びシステムの視点から考察する能力を身につけることを目的とする。

授業計画

- 第1回 授業のガイダンス、食品流通の見方・とらえ方
- 第2回 食品流通の仕組みと価格形成
- 第3回 食品流通、食品産業に関する政策
- 第4回 食品の流通機構① 卸売市場
- 第5回 食品の流通機構② 小売業
- 第6回 米の流通
- 第7回 青果物の流通
- 第8回 食肉・乳製品の流通
- 第9回 水産物の流通
- 第10回 グローバリゼーションと食品流通
- 第11回 食品流通とマーケティング
- 第12回 食品流通と安全・安心問題
- 第13回 食品の物流管理
- 第14回 食品流通と環境問題
- 第15回 筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

1. 高橋正郎・清水みゆき「食料経済」（第5版）オーム社 2016年
2. 加藤義忠・斎藤雅道・佐々木保幸「現在流通入門」有斐閣 2007年

成績評価方法

授業出席・態度 10%、筆記試験 90%

その他

講義科目 : 調理学	単位数 : 2
マークシート略 : [調理学]	学習形態 : 必修科目
担当 : 駒田 亜衣	栄養士免許必修科目

■講義のねらい

人間の身体と心の健康のために「どのような食生活が望ましいのか」を考える食事設計の基礎知識として、食べ物の味を感じるしくみ、料理の形態と栄養成分の変化、さらに個々の年代に対応する栄養条件やその食事摂取基準などを学ぶ。

また、実際の調理操作、調理過程において生じる食品の栄養特性、物性の変化などについて科学的に捉え、安全性、栄養性、嗜好性を高める調理方法について理解する。それらを踏まえて献立作成の手順を知り、栄養士として食事計画が立てられる能力を養うことを目的とする。

■授業計画

第1回	調理の意義と	食事の形態
第2回	食事の計画	食事計画、献立作成
第3回	食品成分表の理解	食品成分表の内容と使い方
第4回	食べ物の特性要因	食べ物のおいしさに関する要因
第5回	食品の成分と調理	植物性食品の調理(穀類・いも類)
第6回		植物性食品の調理(野菜・キノコ類)
第7回		動物性食品の調理(肉類・魚介類)
第8回		動物性食品の調理(卵類・乳製品)
第9回		成分抽出素材の調理(でんぷん)
第10回		成分抽出素材の調理(油など)
第11回	調理操作と栄養	調理操作による栄養学的・機能的利点
第12回	調理操作と栄養	調理操作による組織、物性と栄養成分の変化
第13回	調理操作と調理器具	エネルギー源、非加熱・加熱調理、
第14回	調理と安全	衛生管理と食品の安全性
第15回	試験とまとめ	試験の実施、まとめと解説

■教材・テキスト・参考文献等

- ・「食品成分表2018」女子栄養大学出版部
- ・渋川祥子ら著「エスカパーシック 食べ物と健康—調理学—」同文書院

■成績評価方法

- ・試験、提出物、出席状況で評価する。

対象:

講義科目 :調理学実習 I (67期生)	単位数 1 :
マークシート略 :〔調理実 I 〕(67期生)	学習形態 :
担当 :生川 美江	

講義のねらい

日本料理、西洋料理、中国料理の構成を理解し、基本調理を行うことで基礎的な調理操作、食材の取り扱い、調理器具・機器の正しい使用法を習得することを目的とする。

また、食材によって異なる栄養価・嗜好性を生かす調理法について理解を深めるよう旬の食材をできる限り多種取り扱い、多様な調理法を経験することで今後の学修の基礎となるよう考慮する。

同時に、効率的且つ安全な調理ができるよう、衛生面や加熱機器の取り扱いに配慮できる力を養う。

授業計画

- 第1回 実習ガイダンス
- 第2回 調理の基本、栄養価計算等演習
- 第3回 調理実習 (炊飯の理論、基礎調理)
- 第4回 調理実習 (日本料理の特徴)
- 第5回 調理実習 (西洋料理の特徴)
- 第6回 調理実習 (日本料理)
- 第7回 調理実習 (西洋料理)
- 第8回 調理実習 (日本料理)
- 第9回 調理実習 (日本料理)
- 第10回 調理実習 (中国料理の特徴)
- 第11回 調理実習 (西洋料理)
- 第12回 調理実習 (日本料理)
- 第13回 調理実習 (日本料理)
- 第14回 調理実習 (中国料理)
- 第15回 まとめ、器具の管理

教材・テキスト・参考文献等

一食献立による「調理実習25」永嶋久美子他著 医歯薬出版
実習献立は原則一週間前に配布するので、予習の上実習に臨むこと

成績評価方法

毎回実習後レポートの提出を求める。また、15回の中で試験を実施する。
出席点20点 (欠席1回または45分以上の遅刻・早退1回につき2点減点、45分未満の遅刻・早退は1点減点する。また、出欠確認の際に教室内にいなければ欠席または遅刻とし、遅刻2回で欠席1回と扱う。
なお、6回以上欠席した場合は単位認定を行わない。)
レポート20点、試験40点の100点満点で60点以上を合格とする。

その他

班単位での学修が中心となるため、極力遅刻・欠席をしないよう、またやむを得ない場合は連絡するよう心掛けること。

講義科目 : 調理学実習Ⅱ	単位数 : 1
マークシート略 :〔調理実Ⅱ〕	学習形態 : 選択科目
担当 : 駒田 亜衣	栄養士免許必修科目

■講義のねらい

調理の理論に基づいた調理操作は、料理の栄養面、安全面、嗜好面を満たすものである。

前期の調理学実習Ⅰでは、日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な調理操作を学ぶ中で、正しい調理機器の使い方、食材の扱い方などを習得するとともに、食品の組み合わせなどを考慮した基本的な食事計画の作成について学んだ。

調理学実習Ⅱでも引き続きそれらを考慮し、加えて「給食計画実務論実習Ⅰ」に向けた大量調理の基礎も学んでいきたい。さらに、さまざまな条件を考慮した献立作成をおこない、それらを調理して評価をすることにより、満足度の高い献立作成ができる能力を養うことも目的とする。

■授業計画

第1回	オリエンテーション・献立作成
第2回	調理実習・日本料理
第3回	献立作成
第4回	調理実習・中国料理
第5回	調理実習・日本料理
第6回	調理実習・西洋料理
第7回	調理実習・日本料理
第8回	調理実習・中国料理
第9回	献立作成
第10回	調理実習・西洋料理
第11回	調理実習・製菓
第12回	調理実習・日本料理
第13回	献立作成
第14回	調理実習・西洋料理
第15回	筆記試験とまとめ

■教材・テキスト・参考文献等

- ・松本仲子(監修)「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大学出版部)
- ・「調理学実習Ⅰ」で使用した教科書を適宜参考にする。
- ・実習で使用する献立等は毎回配付する。

■成績評価方法

・実習への取り組み、課題レポートの内容、出席状況を考慮して評価する。また、第15回目に筆記試験を実施し、こちらも評価の対象とする。

■その他

- ・「調理学」「調理学実習Ⅰ」を必ず受講していることとする。

対象：

講義科目 : 調理学実習Ⅲ	単位数 1 :
マークシート略 : [調理実Ⅲ]	学習形態 :
担当 : 生川 美江	

講義のねらい

調理学・調理学実習Ⅰ・Ⅱで習得した調理学の知識や、理論に基づく調理操作を基に、さまざまな条件を考慮した献立作成・調理・評価を経験することで対象者とシーンに応じた食事管理のできる能力を養うことを目的とする。具体的には指定献立調理と課題演習・実習により食事摂取基準を充足する献立作成と調理、ライフステージ別栄養、満足度の高い食卓の整え方（行事食、食器の選択・盛り付け）を学び、栄養士として給食管理・栄養教育に生かせることをめざす。

授業計画

- 第1回 実習ガイダンス、食品構成・献立構成演習
- 第2回 献立作成演習（日常保健食）
- 第3回 献立作成演習（妊娠期の食事）
- 第4回 調理実習（日常保健食課題献立）
- 第5回 調理実習（妊娠期の食事課題献立）
- 第6回 演習（課題実習の評価、離乳食の進め方）
- 第7回 調理実習（離乳期の指定献立）
- 第8回 調理実習（日本料理指定献立）
- 第9回 献立作成演習（日本料理）
- 第10回 調理実習（日本料理指定献立）
- 第11回 調理実習（日本料理課題献立）
- 第12回 献立作成演習（西洋料理）
- 第13回 調理実習（西洋料理指定献立）
- 第14回 調理実習（西洋料理課題献立）
- 第15回 まとめ、器具の管理

教材・テキスト・参考文献等

「調理学実習Ⅰ」で使用した教科書を適宜参考にする。
また、実習で使用する献立等は必要に応じ配付する。

成績評価方法

実習への取り組み、課題レポート、出席状況を考慮して評価する。
出席状況については欠席1回または45分以上の遅刻・早退1回につき2点減点、45分未満の遅刻・早退は1点減点する。また、出欠確認の際に教室内にいない場合は欠席または遅刻とし、遅刻2回で欠席1回と扱う。
なお、6回以上欠席した場合は単位認定を行わない。

その他

班単位での学修が中心となるため、極力遅刻・欠席をしないよう、またやむを得ない場合は連絡するよう心掛けること。

講義科目 : 管理栄養特殊講義	単位数 : 2
マークシート略 : [管理栄養]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 食物栄養学専攻教員	*第2学年で履修

講義のねらい

将来栄養士または管理栄養士として働く希望のある学生を対象とし、管理栄養士の国家試験問題や栄養士実力認定試験問題にも触れながら、栄養士免許必修科目のまとめを行う。ただ単に栄養士免許必修科目の復習を行うのではなく、学んだことの応用やディスカッションを行うため、**これ以前の栄養士免許必修科目について、復習および予習ができて**いることを前提に講義を展開する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、これまでの知識の確認テスト
2回	生化学分野
3回	栄養学総論分野
4回	栄養学各論分野
5回	食品学総論分野
6回	食品学各論分野
7回	調理学分野
8回	食品衛生学分野
9回	社会福祉概論分野
10回	公衆衛生学分野
11回	臨床栄養学分野
12回	給食管理論分野
13回	公衆栄養学分野
14回	解剖生理学分野
15回	栄養指導（栄養教育）論分野

*その他、12月に行われる栄養士実力認定試験受験を必須とする
(各自受験料の負担有り。一部補助金予定)

*進捗状況によって、講義内容を入れ替えることもある。

教材・テキスト・参考文献等

*2017年度版栄養士実力認定試験過去問題集 (一社) 全国栄養士養成施設協会編 建帛社

*これまで使用した教科書、ノート

*その他講義中に紹介する

成績評価方法

教員によってレポートや小テストが課される。それぞれの教員からの評価と栄養士実力認定試験結果から総合的に判定する。

講義科目	: 特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [特別演習]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 阿部 稚里	* 第2学年で履修	

講義のねらい

本演習を通して、専門知識と技術を様々な問題解決に活用できる能力を修得するとともに、計画的に問題解決を遂行する能力を身につけることを目的とする。また、1年間の特別演習を通して、コミュニケーション能力を養う。

授業計画

- ・食や健康に関する記事のグループ討論
- ・食事調査に関する文献講読
- ・食事調査の実施・卒業論文作成
- ・その他、地域連携への取り組み

*受講生の興味に合わせ、卒業論文の内容は相談の上決めていく。

教材・テキスト・参考文献等

- ・参考文献は随時紹介する。

成績評価方法

- ・出席状況、受講態度、卒業論文に対する取り組みを総合的に見て評価する。

その他

- ・データ整理、卒業論文の作成、地域連携への取り組みなど、特別演習開講時間以外にも活動がある。

講義科目	: 特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [特別演習]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 飯田 津喜美		* 第2学年で履修

講義のねらい

演習（ゼミ）を通して、これまでに得た食と健康に関する知識や技術について理解を深め、実践的な場面においても活用できる能力を修得することを目的とする。

授業計画

- ・ ガイダンス、研究テーマの説明
 - ・ 研究テーマに関する情報収集と基本的な実験技術の習得
 - ・ 研究計画作成及び実施
 - ・ パワーポイントによる研究報告
- 〈これまでの研究報告例〉
- ・ ササゲ属マメの栽培利用状況について
 - ・ スチームコンベクションオープンを用いたシロミトリ豆料理の提案 など

その他の活動

- ・ 地域貢献のための諸活動への参加

なお、受講生の状況などにより内容を変更する場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法

出席状況、報告内容、ゼミ運営への参加度、提出物により総合的に評価する。

その他

研究活動を行うためには、ゼミ時間以外の自主的な取り組みが必要となる。

講義科目 : 特別演習	単位数 : 4
マーケット略 : [特別演習]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 駒田 亜衣	* 第2学年で履修

■講義のねらい

将来、栄養士として社会で活躍することを希望する学生を対象とする。
公衆栄養学的調査・研究を実施する。

テーマ

1. 調査データの解析
2. 研究会・学会等での報告
3. 調査への参加
4. 地域と連携した取り組みへの参加 等

※テーマは、本演習の履修人数などにより変更・調整する場合がある。

【これまでのテーマ】

- ・三重県県民健康栄養調査の解析
- ・特定健診結果と生活習慣との関連の解析
- ・特定保健指導の効果の解析
- ・保育所における持参米飯量の検討 など

【その他の活動】

- ・地域連携カフェの開催
- ・世界の料理講座（調理実習の開催）
- ・エディブルフラワーレシピの開発
- ・津ぶっこ食材を用いたレシピ開発 など

■成績評価方法

本演習に対する活動意欲、研究発表内容やレポート、出席状況などを総合して評価する。

講義科目	: 特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [特別演習]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 杉野 香江	* 第2学年で履修	

講義のねらい

本演習では、健康増進を目的とした調査・研究を行う。主に骨量減少に及ぼすライフスタイル関連因子について検討する。研究を通して、自ら課題を発見し解決する能力を養う。

授業計画

- ・ 研究テーマについての説明
- ・ 研究テーマに関連する情報収集（文献講読）
- ・ 研究計画の作成
- ・ 調査研究の実施
- ・ 調査データの解析
- ・ レポート作成、研究発表（パワーポイント作成）

教材・テキスト・参考文献等

参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法

出席状況、レポート内容、研究発表、研究に取り組む姿勢により総合的に評価する。

その他

調査を行うにあたり、受講日以外の研究活動が必要となる。

講義科目	: 特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [特別演習]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 橋本 博行	* 第2学年で履修	

講義のねらい

本演習は、除去食等のアレルギー対応食への、意図しないアレルゲンの混入防止対策を立案することを目的とする。

演習での調査・研究内容は、就職後の栄養士の業務に必要な場合のほか、学校給食の現場でも有益な情報であると考えられる。さらに、調査・研究、そして情報発信を行うことを通じて、各自の実践力、チームで動く力、そして継続的な学習能力を育成することについても本演習の目的である。

授業計画

1. アレルゲンの混入が推定される調理操作等の課題について調査する。
2. 調査した課題の中から、具体的に研究を進める内容を絞り込む。
3. 再現性があり実施可能な研究方法について調査、検討（予備実験）する。
4. 調査・研究を行い、データを収集する。
5. データをまとめ、レポートを作成する。

教材・テキスト・参考文献等

参考図書、文献等は適宜紹介する。

成績評価方法

出席状況、調査・研究参加度、レポートについて総合的に評価する。

その他

講義科目 : 特別演習	単位数 : 4
マークシート略 : [特別演習]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 山田 徳広	* 第2学年で履修

講義のねらい

研究を通じて物事を論理的に考える能力を養う。

授業計画

- ① 卒業研究テーマの説明
- ② ～ ④ 参考文献の紹介、文献講読、基本的実験方法の習得
- ⑤ 研究テーマの設定
- ⑥ ～ 研究を進める、レポート提出、研究発表

教材・テキスト・参考文献等

- ・参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法

- ・出席状況，受講態度，レポート
- ・特に実験に取り組む姿勢で評価する。

その他

講義科目 : 特別演習	単位数 : 4
マークシート略 : [特別演習]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 相川 悠貴	* 第2学年で履修

■講義のねらい

運動と栄養は健康に必要であり、両者は相互に関連している。本演習は、運動実践や研究活動を通して、運動栄養学の専門知識を習得すること、種々の問題を解決する能力を身につけることを目的とする。

■授業計画

授業の流れは、①教員による演習の説明→②学生による演習の選択→③学生による演習の実施である。

演習内容は以下の項目を実施予定である。学生は以下の項目の中から、興味が強いものを一部もしくは全部選択して実施する。

1. 運動実践を中心とした運動生理学の学習

運動による身体の変化は、運動栄養学、スポーツ栄養学を考える上で必須の知識である。様々な様式、強度、量の運動と、様々なスポーツ活動を自ら行い、自らの身体の変化を観察しつつ、運動生理学の知識を身に付ける。

2. 食欲を調節する方法の研究

目標とする食行動を実行するためには食欲を調節することが重要であるが、食欲の調節は難しい。自在に食欲を調節する方法を明らかにするため、運動が食欲に及ぼす影響の検討を中心に、食欲調節方法を研究する。

3. ラットを用いた食餌が骨に及ぼす影響の研究

動物実験は、条件統制が可能であり、詳細な検討が行える。ラットを用いて、骨に関する項目を中心に、食餌量や栄養素摂取量の違いが体に及ぼす影響を研究する。

4. その他

1～3以外で、運動栄養学や基礎実験研究に関して、自身が探究したいことの探究を行う。（演習選択前に要相談）

■教材・テキスト・参考文献等

随時紹介する。

■成績評価方法

意欲、成果により判断する。

■その他

運動、スポーツ活動を時間外に行うことがある。

動物実験は、授業時間外の活動が中心になる。

講義科目 : 栄養教育実習 マークシート略 : [教育実習]	単位数 : 1 学習形態 : 自由選択科目 (教職科目)教職必修科目(66期)
講義科目 : 事前・事後の指導 マークシート略 : [事前事後]	単位数 : 1 学習形態 : 自由選択科目 (教職科目)教職必修科目(66期)
担当 : 東福寺 一郎・阿部 稚里	* 第2学年で履修 * 内規を満たしている学生のみ受講可能 * 併せて受講すること

講義のねらい

栄養教諭は栄養士としての専門知識を基礎に、学校教育の中で食や栄養にかかわる教育に携わるために設けられた教育職員である。その教育実践を1週間の実習期間で体験するのが栄養教育実習である。本学で学修してきた食物栄養学に関する素養を生かし、小中学生に対し、いかにすれば有効な食育が可能となるかを考え、それを実践することがこの授業の目標である。

実習にあたっては、実習校の指導教諭や学校栄養士の指導のもとに真摯な態度で臨むことが求められる。事前指導では、実習にあたっての心構えや模擬授業を行う。また、事後指導では、実習後の報告とレポート作成を行う。

授業計画

栄養教育実習は9月以降に行われる予定であるため、事前指導については、前期にある程度集中して行う。栄養教育実習については、各実習校のスケジュールに従って指導を受けることになる。

第1回	オリエンテーション	
第2回	食に関する学習教材の研究1	
第3回	食に関する学習教材の研究2	
第4回	指導案の研究1	第5回 指導案の研究2
第6回	指導案の研究3	第7回 模擬授業
第8回	模擬授業	第9回 模擬授業
第10回	模擬授業	第11回 模擬授業
第12回	模擬授業	第13回 模擬授業
第14回	学校現場を学ぶための研修	第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

栄養教育実習の手引き (第1回授業時に配布)

成績評価方法

- ・ 出席を重視する。
- ・ 教育実習の評価については、実習校からの評価を尊重する。
- ・ 事前指導については、模擬授業への取り組み姿勢、他の学生へのコメント内容を中心に評価する。
- ・ 事後指導については、口頭報告内容とレポートの内容で評価する。

その他

栄養教育実習にかかわる行事等については掲示で通知するので、栄養教諭課程履修生は掲示に十分に注意すること。

講義科目 : 特別活動指導論	単位数 : 2
マークシート略 : [特別活動]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 真川 恭子	(教職科目)教職必修

講義のねらい

特別活動の意義・目的について理解を深め、児童・生徒の人間形成にとって望ましい特別活動の在り方について考える。学校現場で行われている実践を聞いたり、受講生が体験してきた教育活動を想起し発表したりするなかで、これからの特別活動や教師のあり方について考察し、教師になるうえでの資質や実践力を培うようにする。

授業計画

第1回	特別活動の歴史的変遷と教育課程における位置づけ
2回	特別活動の教育的意義及び内容
3回	学校の組織と校務分掌
4回	学級活動・ホームルーム活動の内容と指導(I)
5回	学級活動・ホームルーム活動の内容と指導(II)
6回	児童・生徒会活動の内容と指導(I)
7回	児童・生徒会活動の内容と指導(II)
8回	クラブ活動の内容と指導(I)
9回	クラブ活動の内容と指導(II)
10回	学校行事の内容と指導(I)
11回	学校行事の内容と指導(II)
12回	指導計画の作成と内容の取扱い(I)
13回	指導計画の作成と内容の取扱い(II)
14回	特別活動における評価
15回	筆記試験・まとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書・テキストは、特に、使用しない。毎回、講義資料を配付する。
参考文献等は、講義中に紹介する。

成績評価方法

- ① 出席は毎回とる。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ② 小レポート（毎時間実施、提出物含む）40点、筆記試験40点、出席20点

その他

どの子どもも活きる、居心地のよい学級経営の在り方について、事例を通して学ぶ。興味・関心や意欲をもって受講し、幅広い教養、教育者としての使命感などを講義を通して考えていきたい。

また、受講生の小中高時代に体験した特別活動を想起し、発表し合うなかで、より深く、学校現場を理解してもらいたい。

講義科目 : 教育相談	単位数 : 2
マークシート略 : [教育相談]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 廣崎 陽	(教職科目)教職必修

講義のねらい

教育相談の理論と方法を学ぶとともに、教育相談の視点から、学校現場での事例を通し、児童の心理・発達上の様々な問題に対する理解と支援方法を学習することで、学校現場で教育活動を展開する素地として、教師が行う教育相談の理論と方法を習得する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、教育相談の必要性
2回	児童理解の生徒指導
3回	児童期の発達課題と教師のサポート
4回	教師が行うカウンセリング①理論
5回	教師が行うカウンセリング②技法
6回	教育相談活動のあり方（相談演習）
7回	心理教育的アセスメント
8回	児童の諸問題に対する理解と対応①いじめ
9回	児童の諸問題に対する理解と対応②不登校
10回	児童の諸問題に対する理解と対応③問題行動
11回	障がいのある児童への支援①障害と発達障害
12回	障がいのある児童への支援②事例（ASD、ADHD、LD）
13回	精神病理とその予備軍への対応
14回	保護者との連携
15回	教師の信念とメンタルヘルス

教材・テキスト・参考文献等

エッセンス学校教育相談心理学 石川正一郎 藤井泰編著

成績評価方法

レポート（毎授業内で行う小レポート15回）30%、期末試験70%

その他

特記事項なし

講義科目 : 教職実践演習(栄養教諭)	単位数 : 2
マークシート略 : [教職演習]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 阿部 稚里	教職必修科目(66期)
	* 第2学年で履修

講義のねらい

これまでの教職課程を振り返りながら、模擬授業を行い、質疑応答を行う。学校現場の視点を取り入れる観点から、教育現場への参加、現職教員や教員勤務経験者、スクールカウンセラーによる講演を予定している。

到達目標は、これまでの教職課程の履修履歴を把握し、それを踏まえて、不足している知識や技能などを補い、教員としての最低限の資質能力が身に付いていることを確認することである。

授業計画

第1回	オリエンテーション
2回	履修カルテ作成
3回	模擬授業 1
4回	模擬授業 2
5回	模擬授業 3
6回	模擬授業 4
7回	模擬授業 5
8回	模擬授業 6
9回	教育実習報告会
10回	目指す教員像についてのグループ討議
11回	生徒理解についてのグループ討議
12回	教育支援センターの見学
13回	学校教員もしくはスクールカウンセラーによる講演
14回	教科の指導力についてのグループ討議
15回	教員になるということ (座談会)

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。参考文献については適宜紹介し、参考資料等を配布する。

成績評価方法

模擬授業やグループ討論等への取り組み状況を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、単位認定を行う。

その他

教育支援センターの見学、学校教員もしくはスクールカウンセラーによる講演は、講師の予定によって日程変更がある可能性がある。詳しい日程は、オリエンテーションの日に提示する。